

継続的な改善活動のために！

2010

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来45年の歴史を着実に刻み、'08年4月より工学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、情報学部から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行いたしました。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'04年度に大学基準協会が実施した認証評価にて「基準に適合」との認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'09年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	入学前、在学中の目的・目標意識	11
<4>	大学に対する満足度	17
<5>	授業・学習支援の評価	29
<6>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	55
<7>	KIT Eagle Nestの評価	63
<8>	KIT-IDEALSに関して	73
<9>	卒業時の能力	83
<10>	卒業・修了生アンケートの分析結果	89
<11>	新入生アンケートの分析結果	95
<12>	教職員アンケートの分析結果	111
<13>	全体のまとめ	121
<14>	フリーアンサー集	139
<15>	調査票見本	297

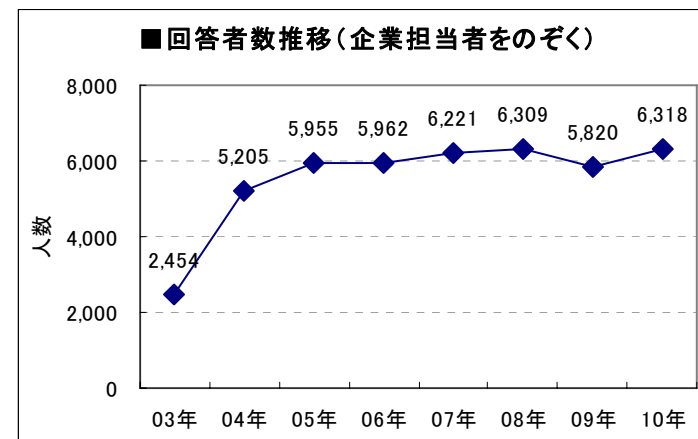
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が8回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析しているが、今回は設問内容の大幅な見直しを行っているため、単年度の評価のものが多い。

■ 調査方法

調査時期	・ 2010年2月～4月に実施。 ・ 2005年の調査より、在学生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	・ 「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。卒業・修了生は郵送によって配布、回収した。 ・ 全て『無記名式』とした。
回収数	・ 今回の全回収数は6,318サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



■ 年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	備考
新生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	新学科体制(4学部、14学科)
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	旧学科体制(3学部、15学科)
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	
企業担当者	KIT卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず	660	実施せず	実施せず	2010年は実施せず
合計		2,454	5,205	6,440	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	

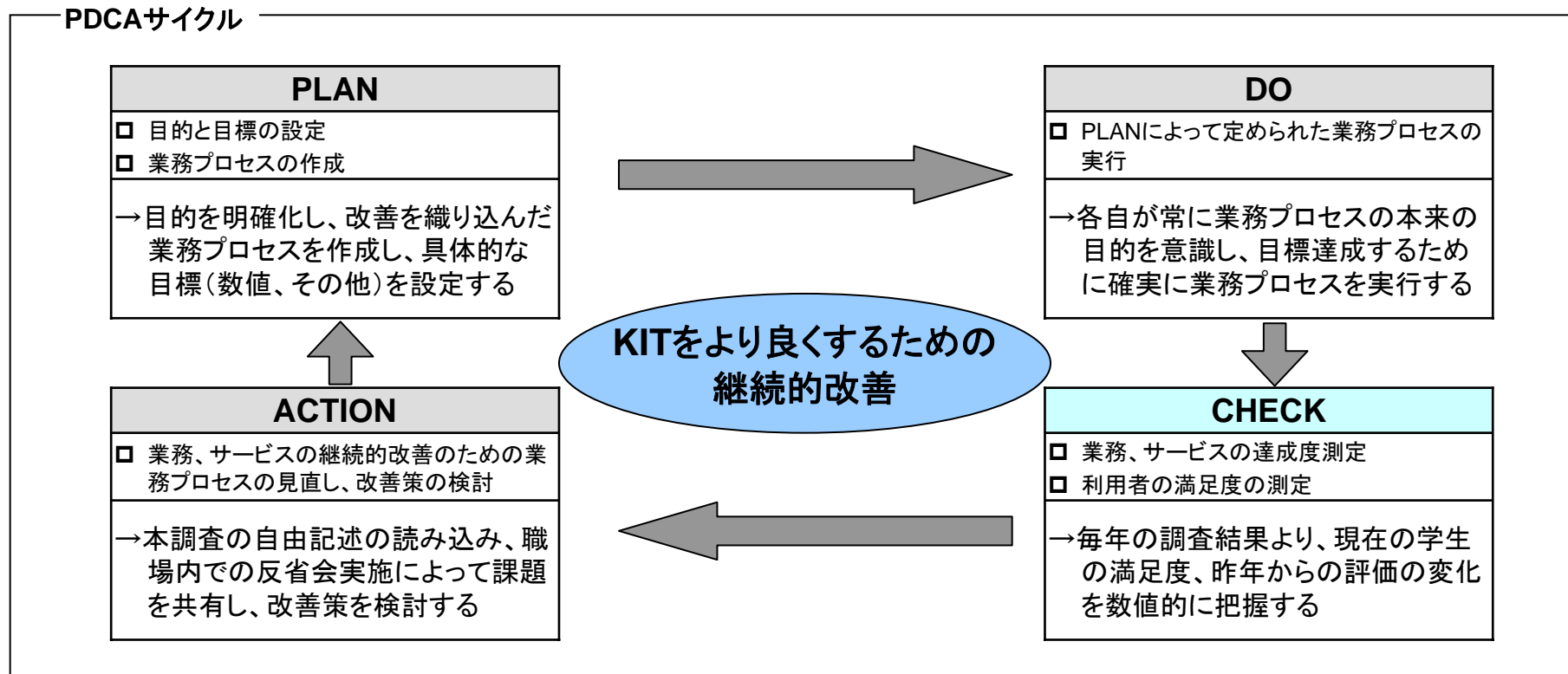
■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none">・ 無回答は全て集計から除外した。・ 割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none">・ 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。・ 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。・ 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。・ 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none">・ 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現しているものもある。

<1-2>調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年からの改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生・卒業生の基本属性

■ 所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

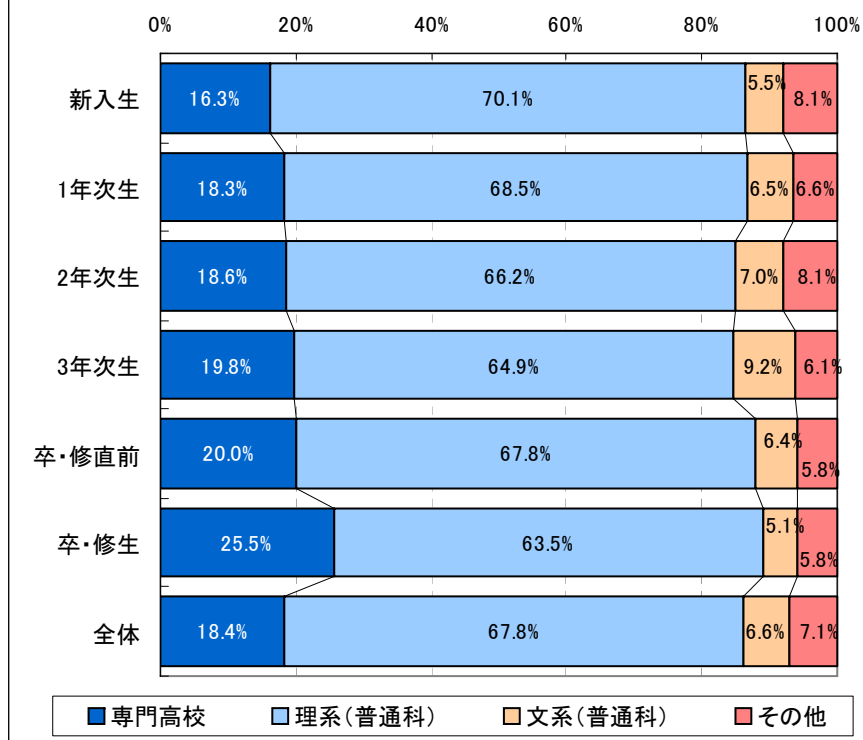
■ 在学生・卒業生の所属学部

(単位:人)

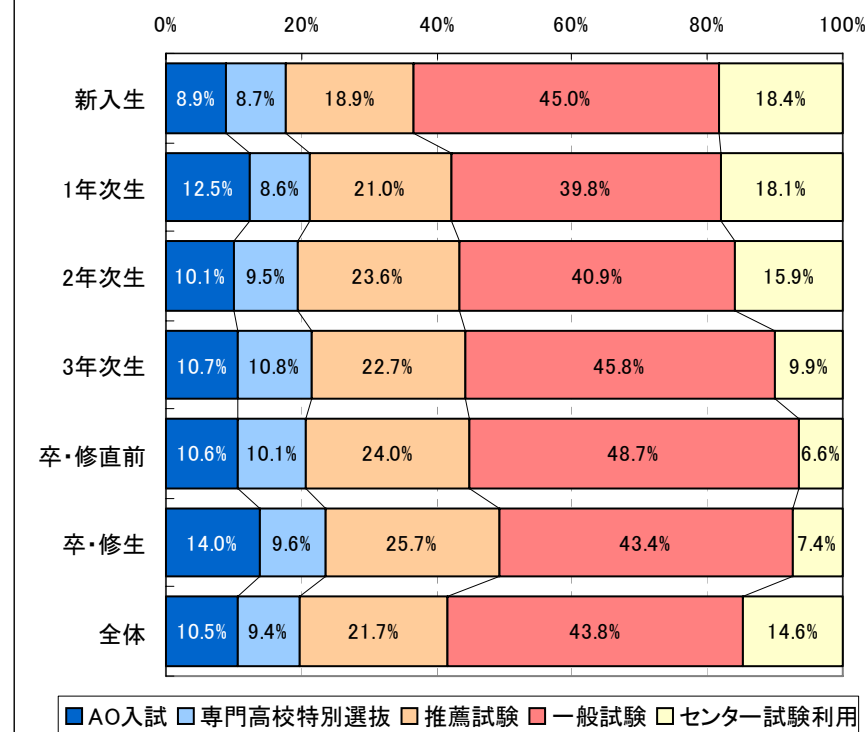
属性	工学部	情報学部	環境・ 建築学部	バイオ・ 化学部	無回答	全体
新入生	764	480	259	217	3	1,723
1年次生	559	361	209	164	—	1,293
2年次生	570	308	145	160	2	1,185

属性	工学部	環境・ 建築学部	情報 フロンティア学部	大学院	無回答	全体
3年次生	381	222	156	—	1	760
卒・修直前	470	261	144	83	2	960
卒・修生	58	38	23	18	—	137

■ 出身高校の課程



■ 入学に至った入試

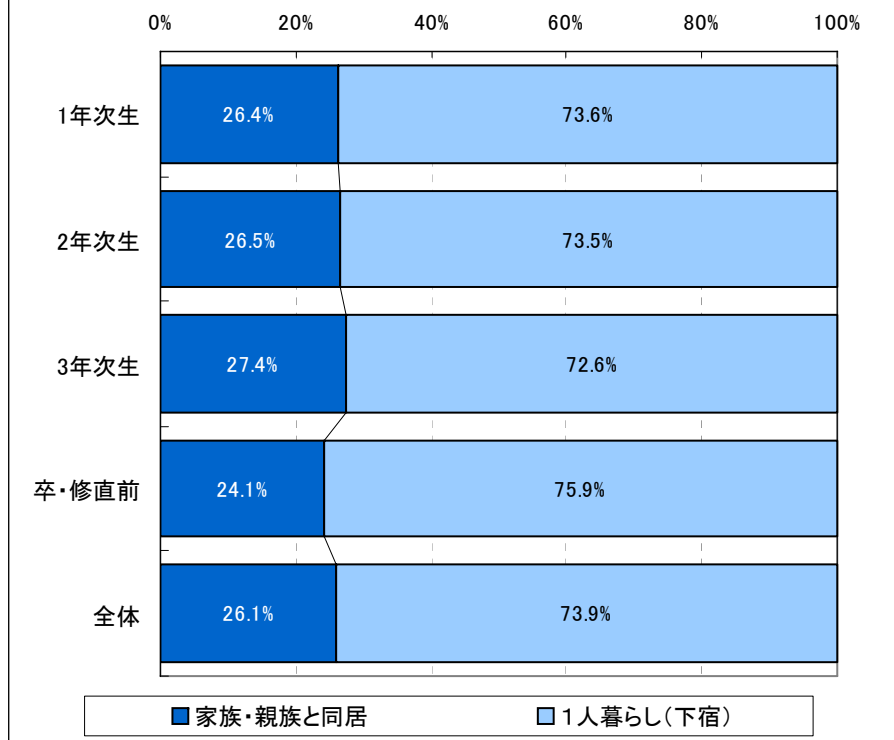


■在学生の出身地域、家族・親族との同居状況

■在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	54	52	207	615	154	117	59	30	1,288
	4.2%	4.0%	16.1%	47.7%	12.0%	9.1%	4.6%	2.3%	100.0%
2年次生	48	47	159	581	147	117	55	29	1,183
	4.1%	4.0%	13.4%	49.1%	12.4%	9.9%	4.6%	2.5%	100.0%
3年次生	34	23	119	355	103	72	33	20	759
	4.5%	3.0%	15.7%	46.8%	13.6%	9.5%	4.3%	2.6%	100.0%
卒・修直前	51	47	143	389	155	97	50	24	956
	5.3%	4.9%	15.0%	40.7%	16.2%	10.1%	5.2%	2.5%	100.0%
全体	187	169	628	1,940	559	403	197	103	4,186
	4.5%	4.0%	15.0%	46.3%	13.4%	9.6%	4.7%	2.5%	100.0%

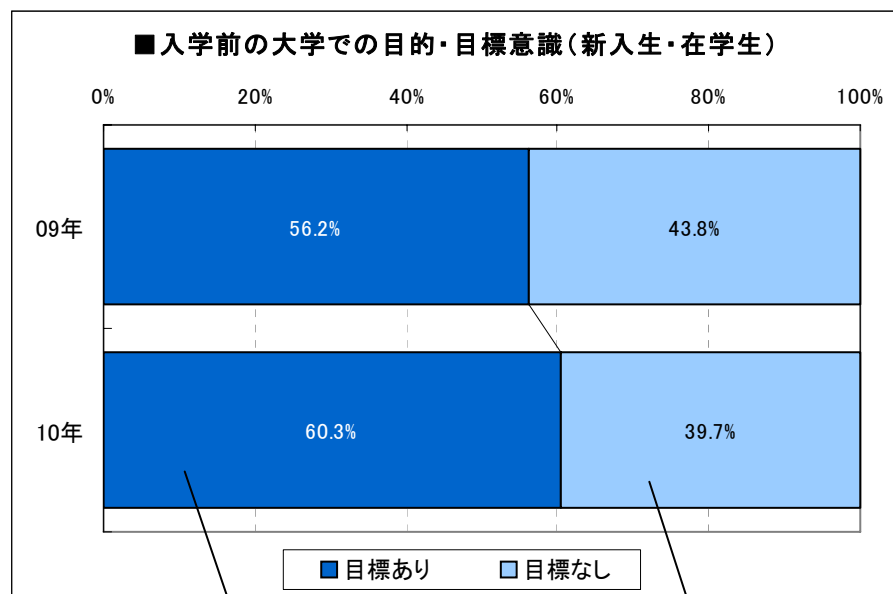
■家族・親族との同居状況



<3-1>入学前、在学中の目的・目標意識

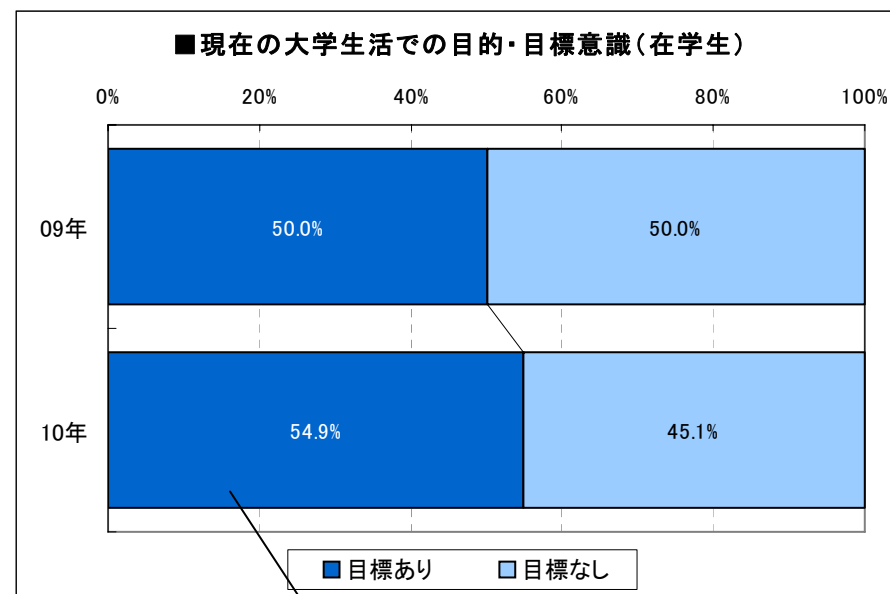
■在学生全体の入試前後の目的意識

- 「大学に入ってこれがやりたい」という「目的・目標」を入学前に持っていましたか？と聞いたところ、60.3%が「目標あり」と答えており、「目標なし」は39.7%であった。
- 前年と比較すると入学時に目標を持っている学生は4.1ポイント増加しており、良い傾向が見られた。
- 「現在の大学生活での目的・目標」に関しては、「目標あり」が54.9%で、入学時点と比べるとわずかに減少しており、入学後に目的・目標を見失う学生がいることが分かった。
- 現在の目的・目標に関しても、「目標あり」の割合は前年より4.9ポイント増加しており、目的・目標を持てている学生が増加していることが分かった。



目標を持つ学生が
増加している

4割は目標を
持たないまま入学

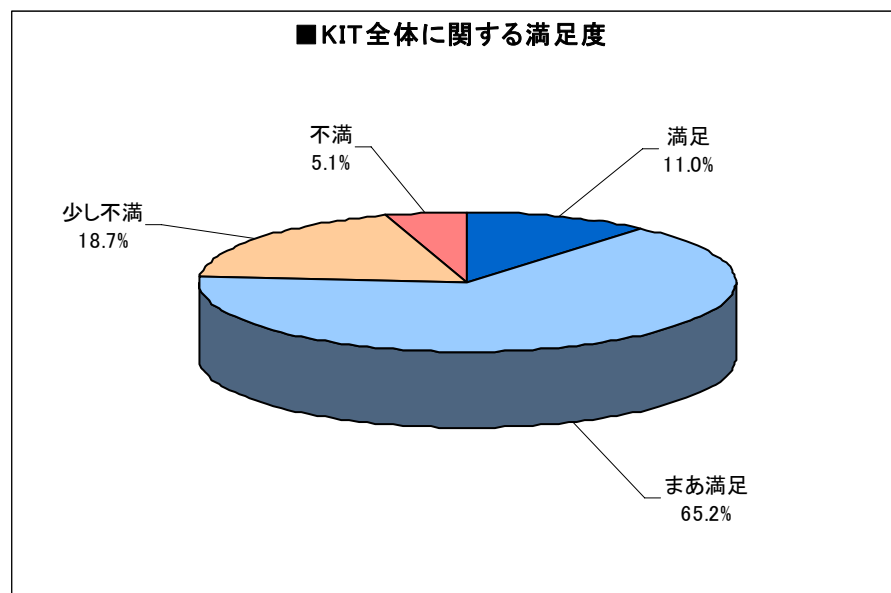


在学中も目標を持つ
学生が増加している

<4-1>KITの総合満足度

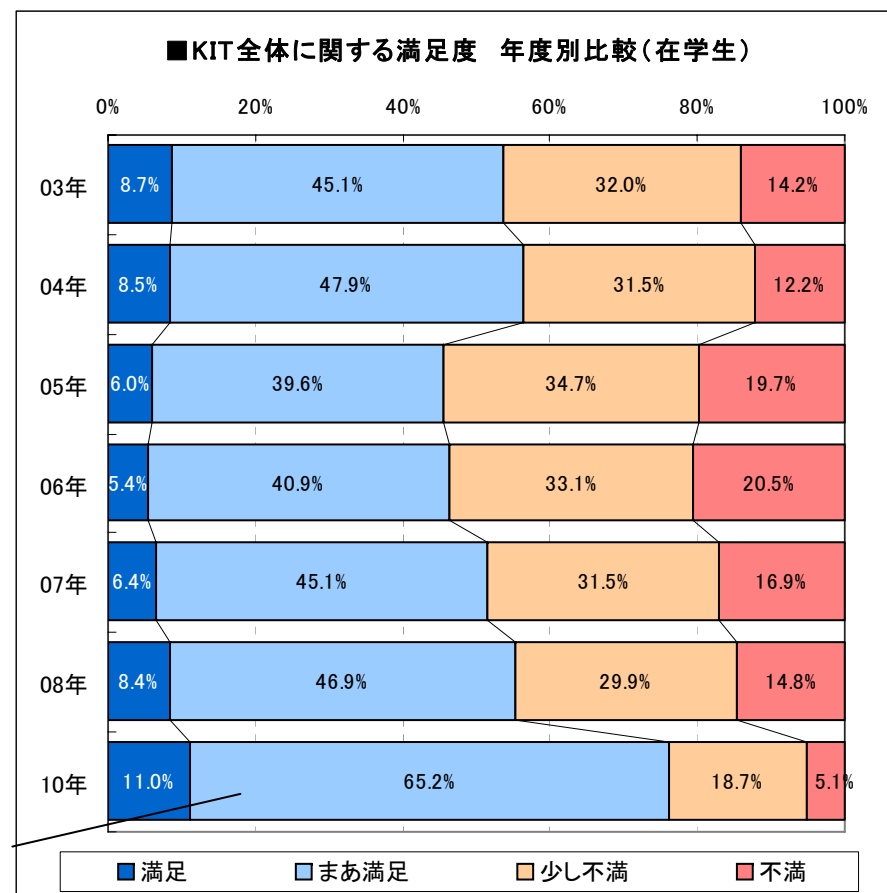
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」を聞いたところ、「満足」は11.0%、「まあ満足」は65.2%であり、合わせると76.2%がKITに満足していた。一方、「不満」は5.1%、「少し不満」は18.7%であり、23.8%は不満を持っていることが分かった。
- 09年にはこの質問はしていないため比較はできない。また、03年から08年は「今のKITに満足している」という質問に対して、「そう思う」～「そう思わない」の4段階で聞いており、聞き方が異なっているが、参考のため比較をした。
- 「KITに満足している」という回答は、05年から08年にかけてわずかずつ増加する傾向が見られた。そして、09年のデータはないが、10年には満足しているという回答が一気に増加していた。聞き方は異なるものの、大学に対する満足度は上がってきていると言って良いと思われる。



満足している(76.2%) > 不満を持っている(23.8%)

聞き方は異なっているが、満足という回答が増加している



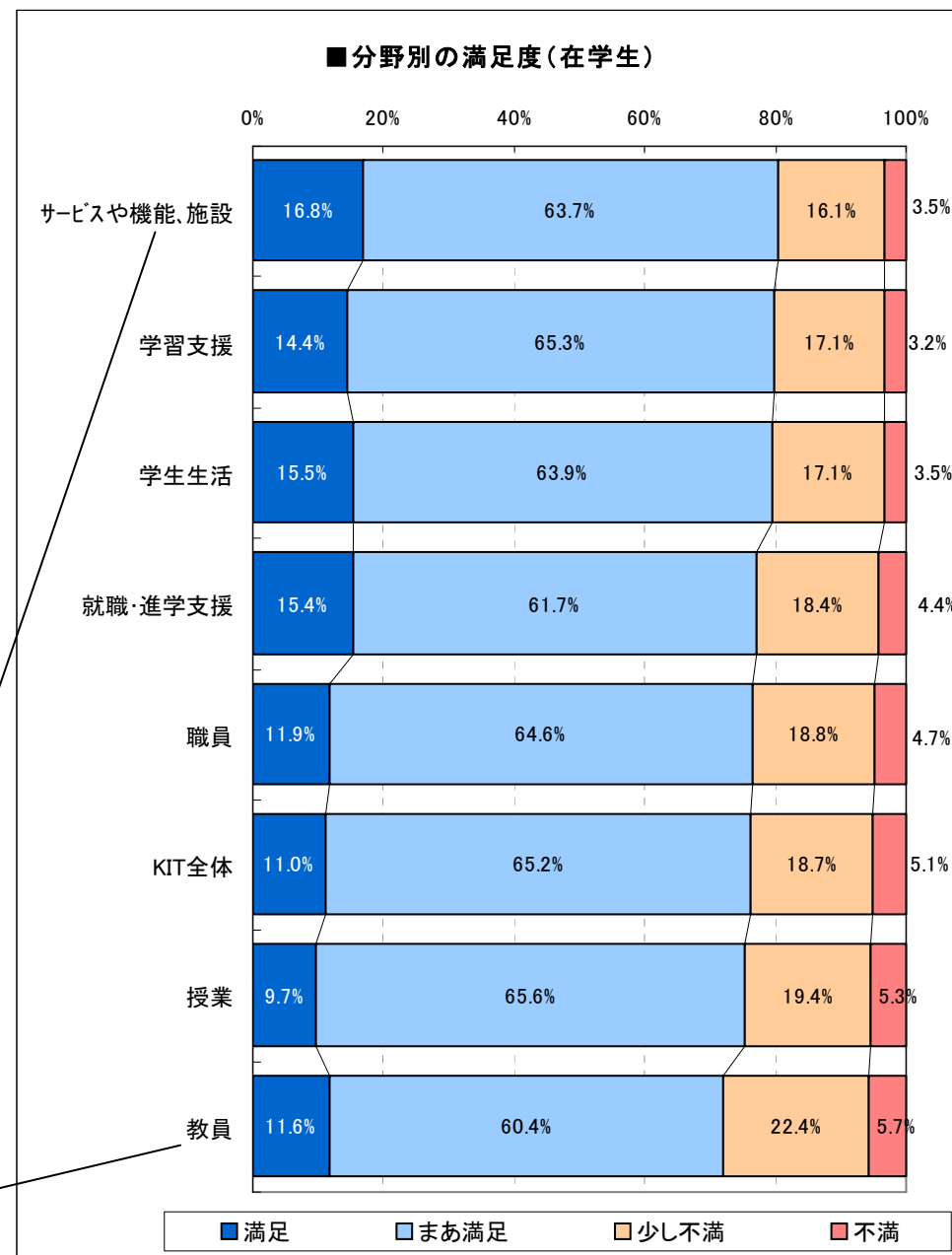
<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

- 「KIT全体の満足度」も含めて、大学機能の各分野の満足度を聞いたところ、右のグラフのようになった。08年までにも分野別に満足度を聞いていたが、聞き方や表現が異なるため、時系列の比較はしていない。
- 最も満足度が高かった分野は「サービスや機能、施設」であり、物販や学食などのソフト面や施設・設備などのハード面が高い評価を受けていることが分かる。
- 次いで、「学習支援」「学生生活」「就職・進学支援」などの満足度が高いことが確認できた。
- 一方、残念ながら最も満足度が低かったのは「教員」であり、満足しているという回答は72.0%であった。また、「授業」についても満足しているという回答は75.3%であった。
- 「職員」の満足度も決して高くはなく、「教員」「職員」という人的な部分の満足度の低さ、「授業」という大学の中心機能の満足度の低さは大きな課題であると言える。

80%以上が満足

満足している層が
75%以下

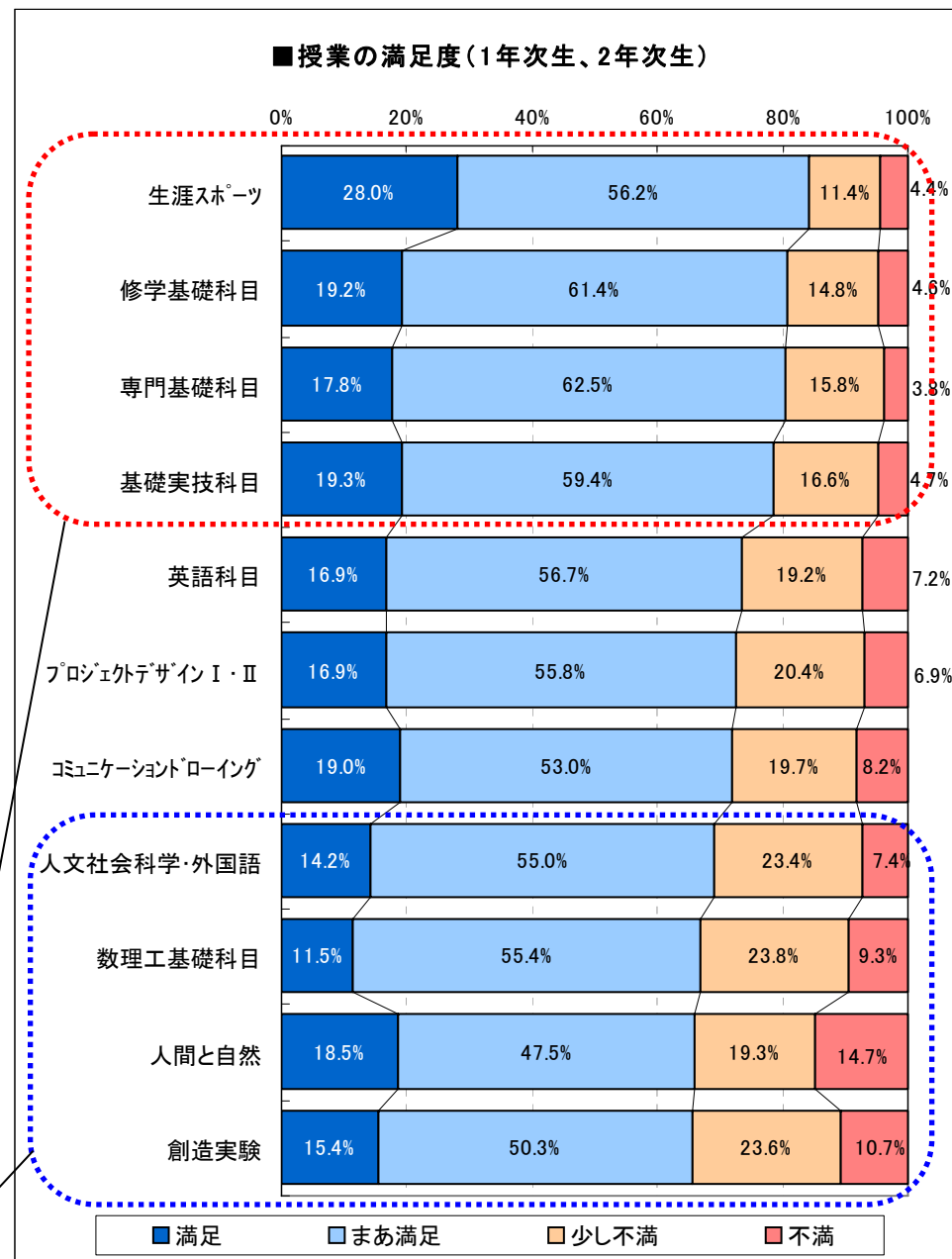


<5-1> 授業の評価(1年次生、2年次生)

■ 授業の評価 1年次生、2年次生

- 授業の構成が、4学部構成(新編成)と3学部構成(旧編成)で内容や呼称が異なるため、別々に集計を行っている。
- 4学部構成の1年次生、2年次生の評価を見ると、最も満足度が高かったのは「生涯スポーツ」であり、「満足」と「まあ満足」を合わせると84.2%が満足と答えていた。
- 次いで、「修学基礎科目」「専門基礎科目」「基礎実技科目」と続いており、これらの授業に関してはおおよそ全体の8割以上が満足と答えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「創造実験」であり、満足という回答は65.7%であった。
- 「人間と自然」も満足という回答は66.0%であったが、「満足」だけを見ると18.5%、「不満」は14.7%と両極端の回答が多く、内容が合う学生と合わない学生が極端に分かれる授業と言える。
- そして、「数理工基礎科目」「人文社会科学・外国語」までの4つの授業では、満足という肯定的な回答が7割に満たなかった。

■ 授業の満足度(1年次生、2年次生)



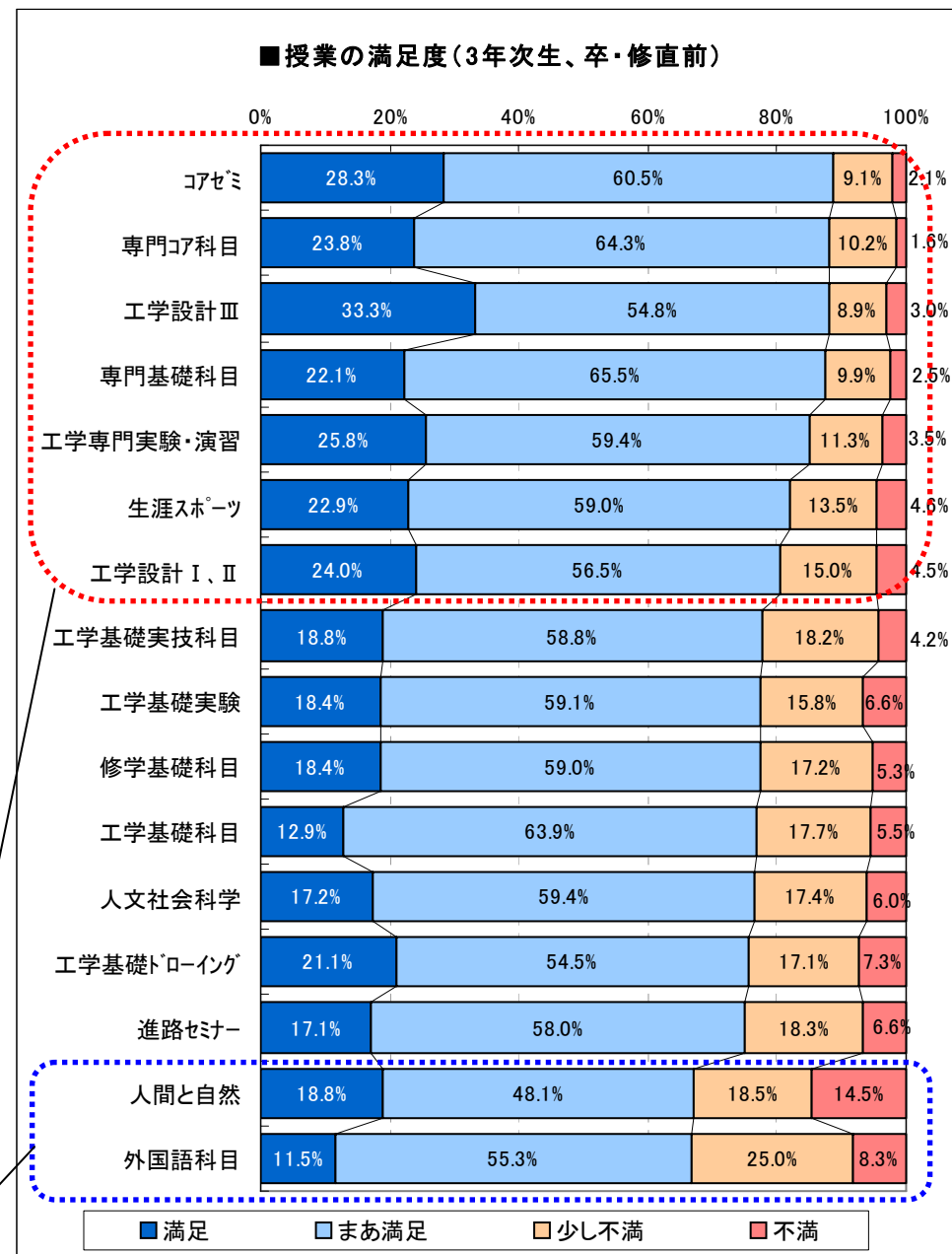
おおよそ
80%以上が満足

満足している層が
7割未満

<5-2> 授業の評価(3年次生、卒・修直前)

■ 授業の評価 3年次生、卒・修直前

- 3年次生と卒・修直前の授業の満足度は右のグラフのようになっていた。
- 最も満足度が高かったのは「コアゼミ」であり、「満足」と「まあ満足」を合わせると88.8%が満足しており、非常に満足度が高い授業と言える。
- 次いで、「専門コア科目」「工学設計Ⅲ」「専門基礎科目」「工学専門実験・演習」と続いており、専門性が高い授業の満足度が高い傾向がうかがえる。
- 1年次生、2年次生の新編成とは直接比較はできないが、新編成では「生涯スポーツ」の満足度が高かったが、旧編成ではそれほど目立って高くはなく、学年による差が見られる結果となった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「外国語科目」、次いで「人間と自然」であった。これらの科目は1年次生、2年次生でも満足度が低い部類になっており、似通った傾向が見られた。



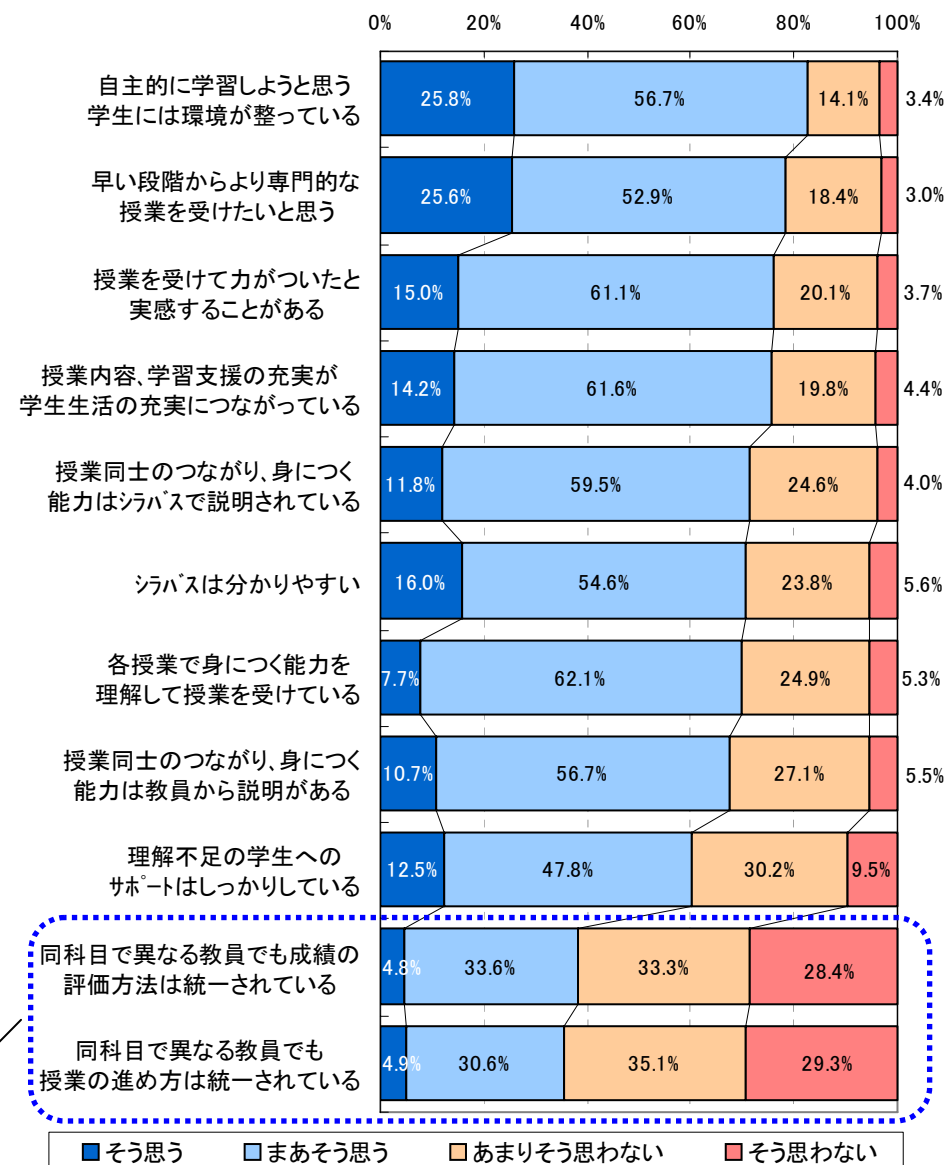
<5-3> 授業の仕組みの評価

■ 授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みに関する満足度を聞いたところ、82.5%の在学生在が「自主的に学習しようと思う学生には環境が整っている」と回答しており、大学側の環境づくりがしっかりと伝わっていると言える。
- また、「授業を受けて力がついたと実感することがある」では76.1%が肯定的な意見であり、指導方法の評価も高いと言える。
- 「早い段階からより専門的な授業を受けたいと思う」では78.5%が肯定的な意見であり、専門的な授業に期待している様子がうかがえる。
- 「授業内容、学習支援の充実が学生生活の充実につながっている」では75.8%が肯定的な意見であり、大学生活の充実には授業の充実が不可欠であると言えそうである。
- 評価が最も低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」であり、肯定的な意見は35.5%であった。また、「同科目で異なる教員でも成績の評価方法は統一されている」でも肯定的な意見は少なく、38.4%であった。これらを見ると、同科目でも教員によって進め方や成績評価が異なるケースが少なからずあり、学生も大きな不満を持っていると言えそうであった。

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

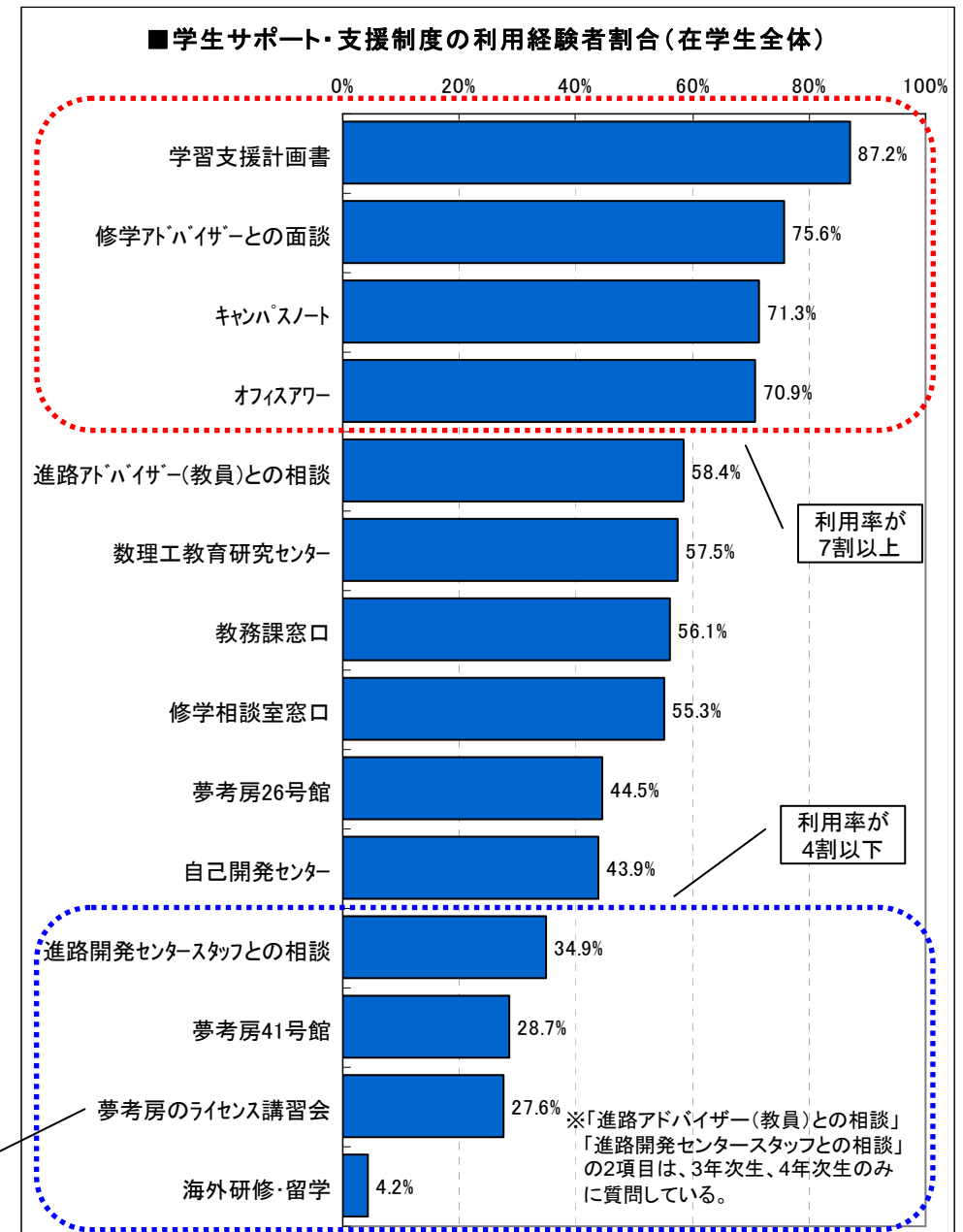
■ 授業の仕組みの評価(在学生)



<5-4> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学習支援策やツール類に関しては、利用経験と評価を聞いているが、まず利用経験を見ると右記のようになる。
- 最も利用率が高かったのは「学習支援計画書」であり、87.2%が利用していた。しかし、これは全学生が利用する必要があるものと思われるが、1割以上の学生が利用していないと答えていることは気になる点と言える。
- 次いで、「修学アドバイザーとの面談」「キャンパスノート」「オフィスアワー」と続いており、ここまでのものは利用率が7割を超えていた。
- 最も利用率が低かったのは「海外研修・留学」であり、利用率は4.2%にとどまっていた。
- 「夢考房のライセンス講習会」は今回新たに追加したものであるが、利用率は27.6%という結果であった。他に「夢考房41号館」が28.7%、「夢考房26号館」が44.5%であり、夢考房の利用率は3～4割であることが分かった。



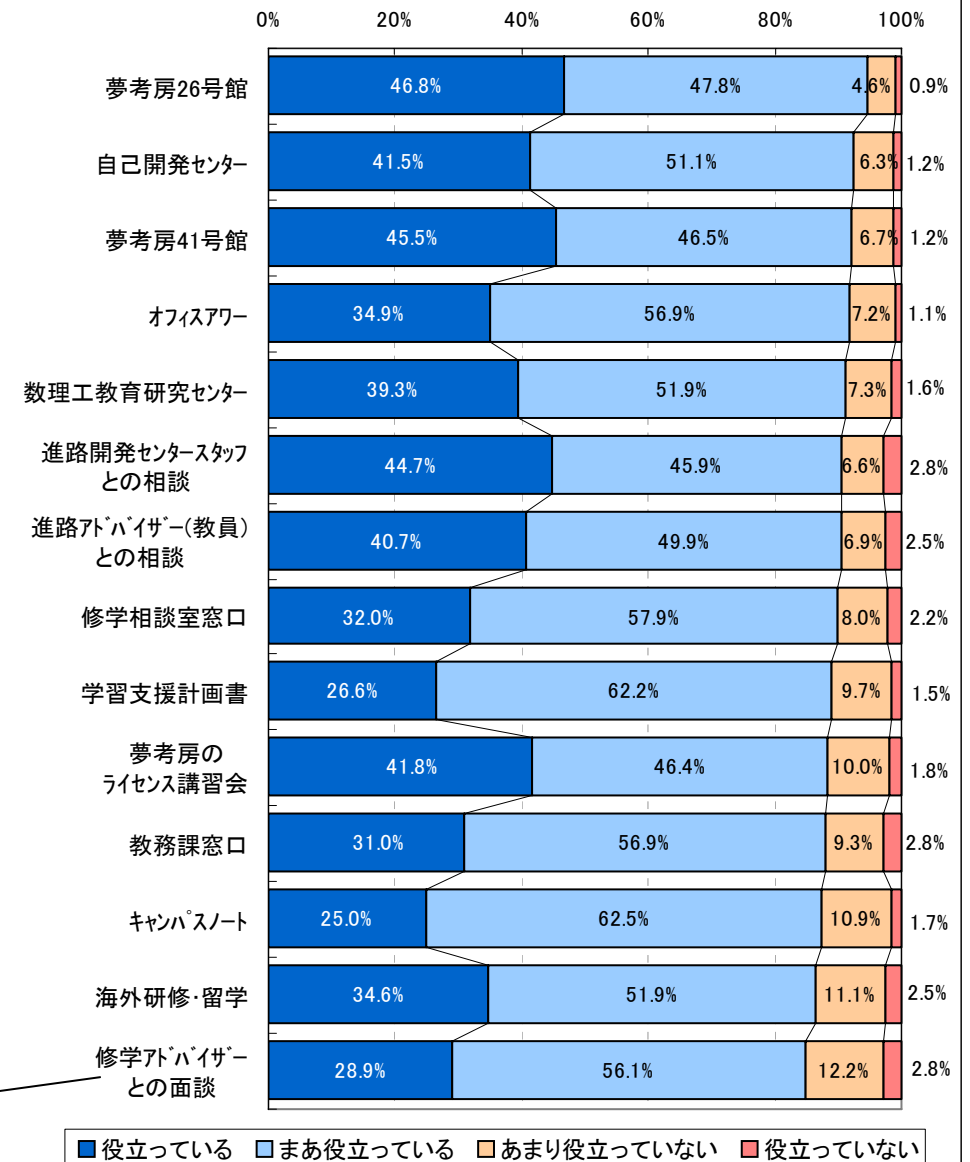
<5-5> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学習支援の評価

- 各学習支援策やツール類の利用者に対して、役立っているかどうかの評価を聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」を合わせると、全ての項目で8割以上が役立っていると答えており、利用率は異なるものの利用者からの評価は非常に高いことが分かった。
- 最も評価が高かったのは「夢考房26号館」であり、94.6%は役立ったと答えていた、前項までの利用率を見ると、利用者の割合は44.5%と半数に満たなかったが、利用者からの評価は非常に高いことが確認できた。
- 次いで、「自己開発センター」「夢考房41号館」「オフィスアワー」と続き、以降に続く7項目までは、利用者の9割以上が役立ったと評価していた。
- 評価が最も低かったのは「修学アドバイザーとの面談」であった。しかしこの利用率は75.6%と高い上、評価が低いといっても85.0%が満足と答えており、しっかりと機能していることが分かった。
- 利用率が高かった「学習支援計画書」「オフィスアワー」なども9割程度は満足と答えており、学習支援には内容的に大きな課題はないのではないかと考えられた。

全体的に評価は非常に高い

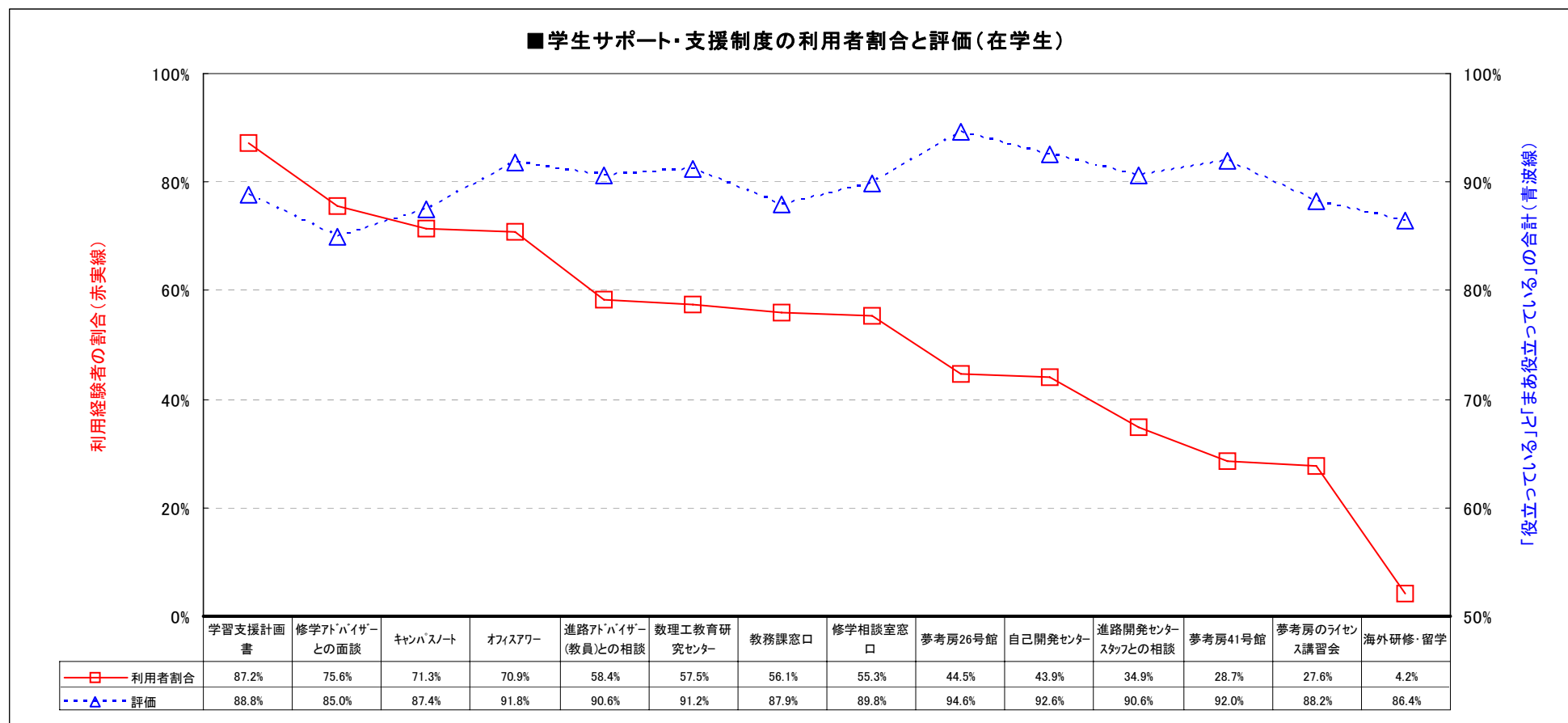
■ 学生サポート・支援制度の評価（在学生）



<5-6> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

- 学生サポート・支援制度の利用経験者割合と内容評価を一緒に比較した。赤い実線が利用経験者の割合であり、グラフの左側の数値軸に対応している。青い波線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- これを見ると、利用者割合は約90%～数%まで大きな幅があるが、役立っているという意見はいずれも8割以上であり、内容的には高い評価を得ている。



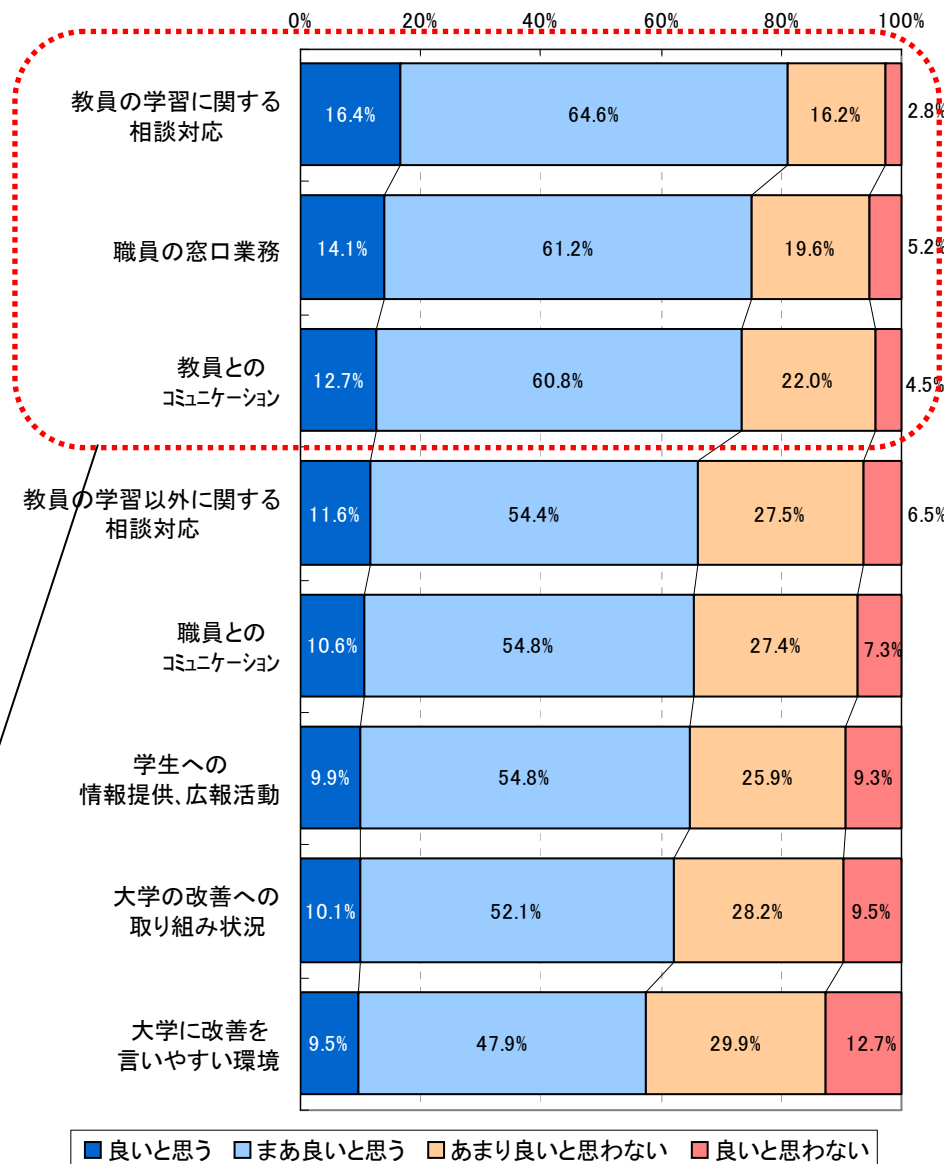
<6-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員に対する評価と、大学の改善への取り組み状況の評価に関して、8項目の評価を聞いた。
- 最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、「良い」と「まあ良い」を合わせると81.0%が良い評価をしていた。
- 教員に関するものを見ると、「教員とのコミュニケーション」も73.5%が良いと感じており、「教員の学習以外に関する相談対応」の評価は66.0%とやや低いものの、大きな課題はないと思われる。
- 職員に関しては、「職員の窓口業務」では75.3%が良いと感じているが、「職員とのコミュニケーション」では65.4%とやや少なかった。
- 最も評価が低かったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、肯定的な意見は57.4%であった。また、「大学の改善への取り組み状況」では62.2%、「学生への情報提供、広報活動」では64.7%が肯定的な意見であり、大学の施策の面の評価はやや厳しい評価となっていた。

良い評価が
7割以上

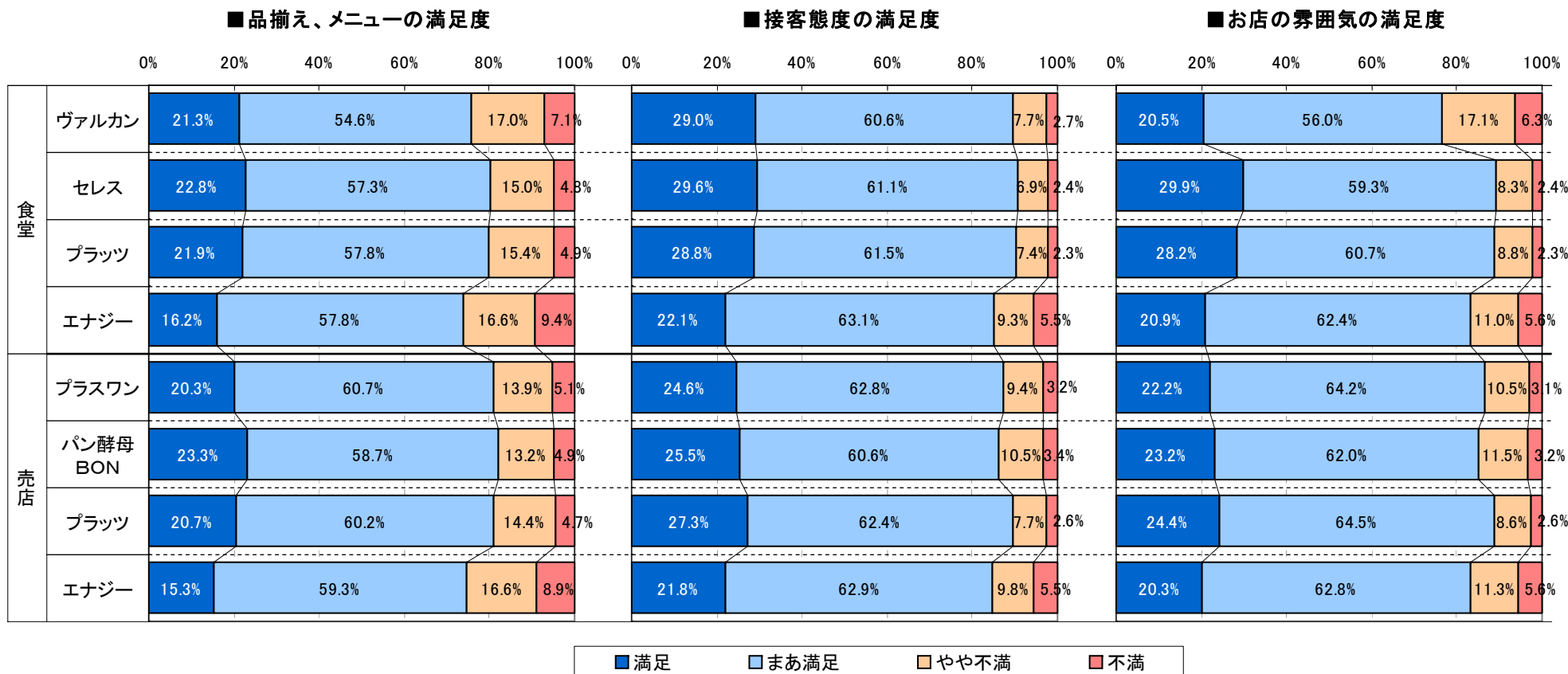
■教職員と大学の改善取り組み状況の評価(在学生全体)



<7-1> 食堂、売店の評価

■ 全体評価

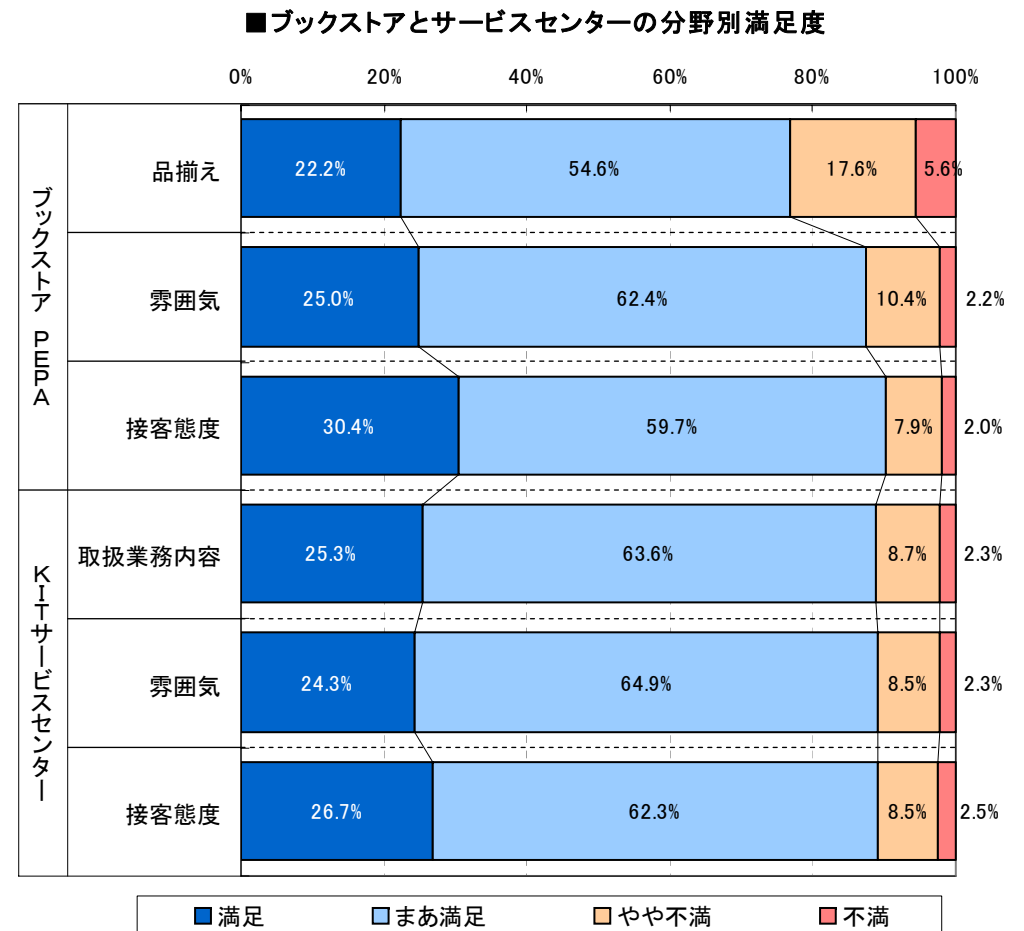
- 学内の食堂、売店に関しては、前回と同様に「品揃え、メニュー」「接客態度」「お店の雰囲気」の3つのポイントで、8施設の評価を聞いた。
- 「品揃え、メニューの満足度」に関して「満足」と「まあ満足」を合わせた割合で比較すると、差はそれほど大きくはないが、食堂では「セレス」「プラッツ」の評価が高く、「ヴァルカン」「エナジー」がやや低めであった。そして、売店では「エナジー」の低さが少し目に付いた。
- 「接客態度」にもそれほど大きな差はないが、食堂、売店ともに「エナジー」の評価がやや低かった。評価が低いといっても食堂の「エナジー」では不満という意見が14.8%、売店では15.3%であり、それほど大きな問題はないものと思われる。
- 「お店の雰囲気」の評価にはやや差があり、食堂では「ヴァルカン」の評価がやや低く、「セレス」「プラッツ」がやや高めであった。また、売店では差が少なかったものの、「エナジー」の評価がやや低めであった。



<7-2>ブックストアとサービスセンターの評価

■ブックストアとサービスセンターの分野別満足度

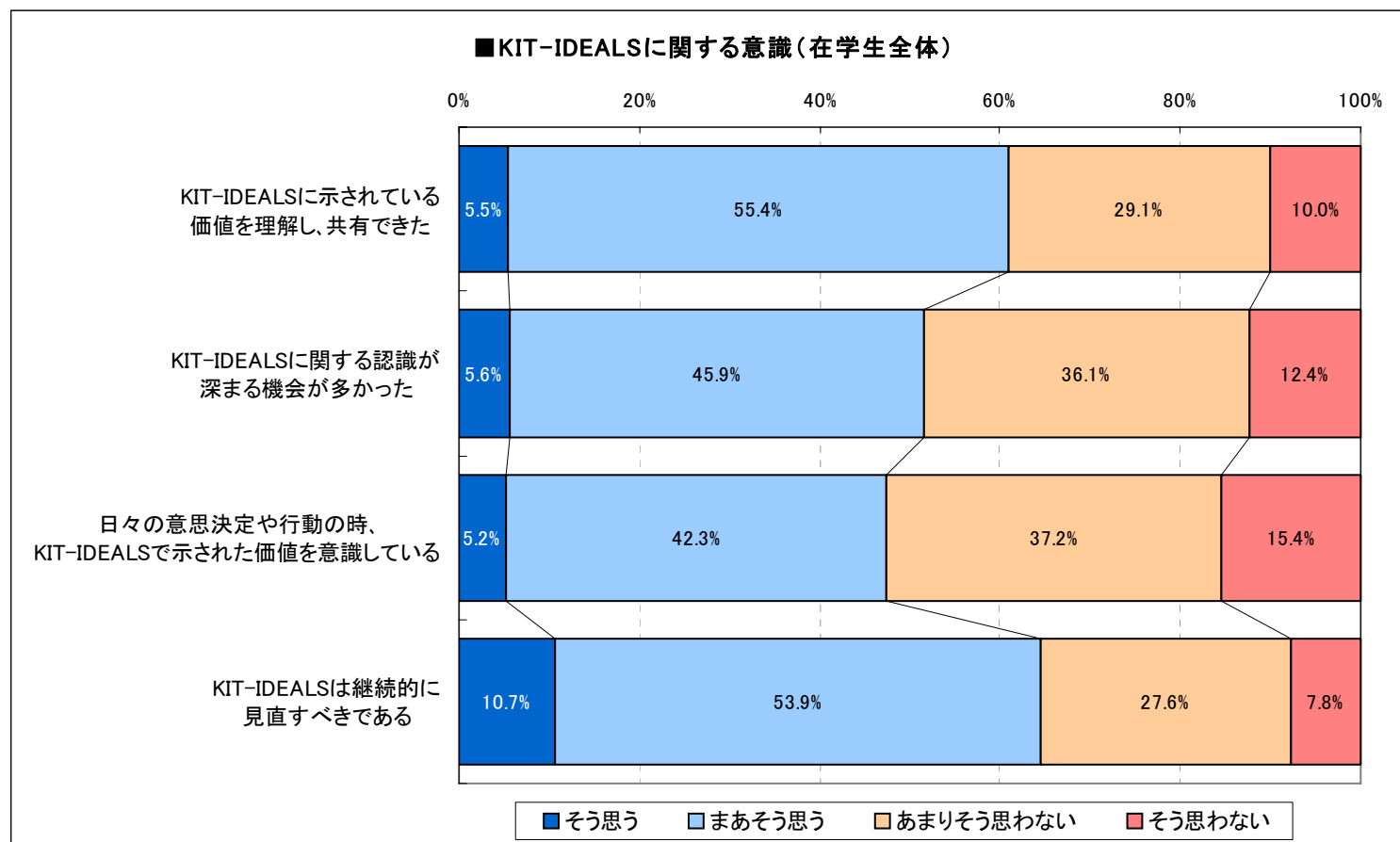
- 「ブックストアPEPA」と「KITサービスセンター」に関しても、「品揃え・取扱業務内容」「雰囲気」「接客態度」の3項目の評価を聞いた。
- 「ブックストアPEPA」の「雰囲気」「接客態度」に関しては、8割以上が満足と答えており、高い評価であった。そして、「品揃え」に対する満足度は76.8%と少し下がるものの、大きな課題がありそうではなかった。
- 「KITサービスセンター」の評価も非常に高く、「取扱業務内容」「雰囲気」「接客態度」のいずれもほぼ9割が満足と答えており、利用者は満足しているようであった。



<8-1>KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

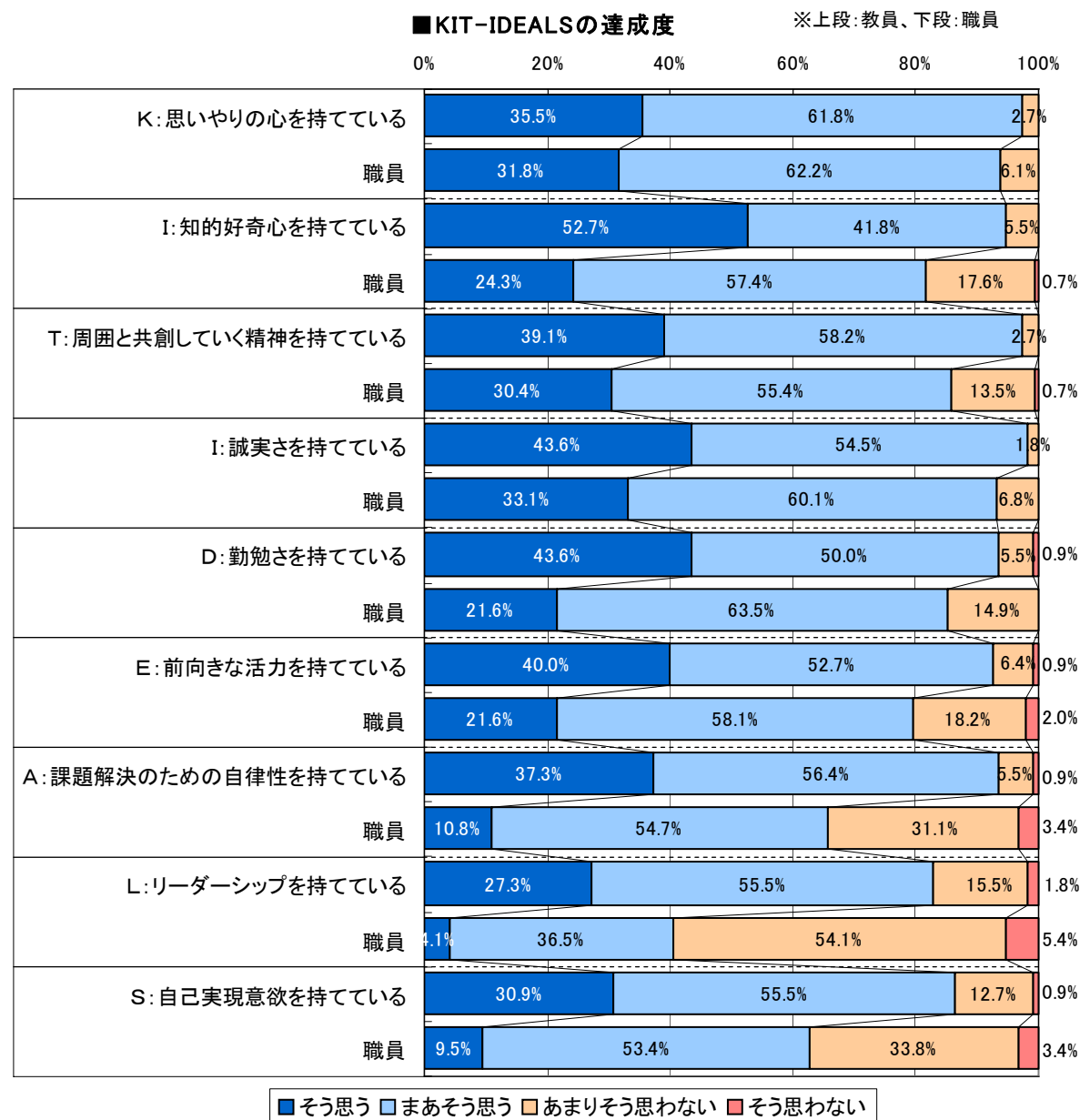
- 在学生のKIT-IDEALSに対する意識を見ると、「KIT-IDEALSは継続的に見直すべきである」に対しては肯定的な意見が64.6%であり、見直しを求めている意見が少なくないことが分かる。
- 「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」では、肯定的な意見が60.9%であり、理解度から見ると決して高いとは言えない。
- 「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では51.5%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では47.5%が肯定的な意見であり、この2つの項目では肯定的な意見が半数程度にとどまっていた。



<8-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

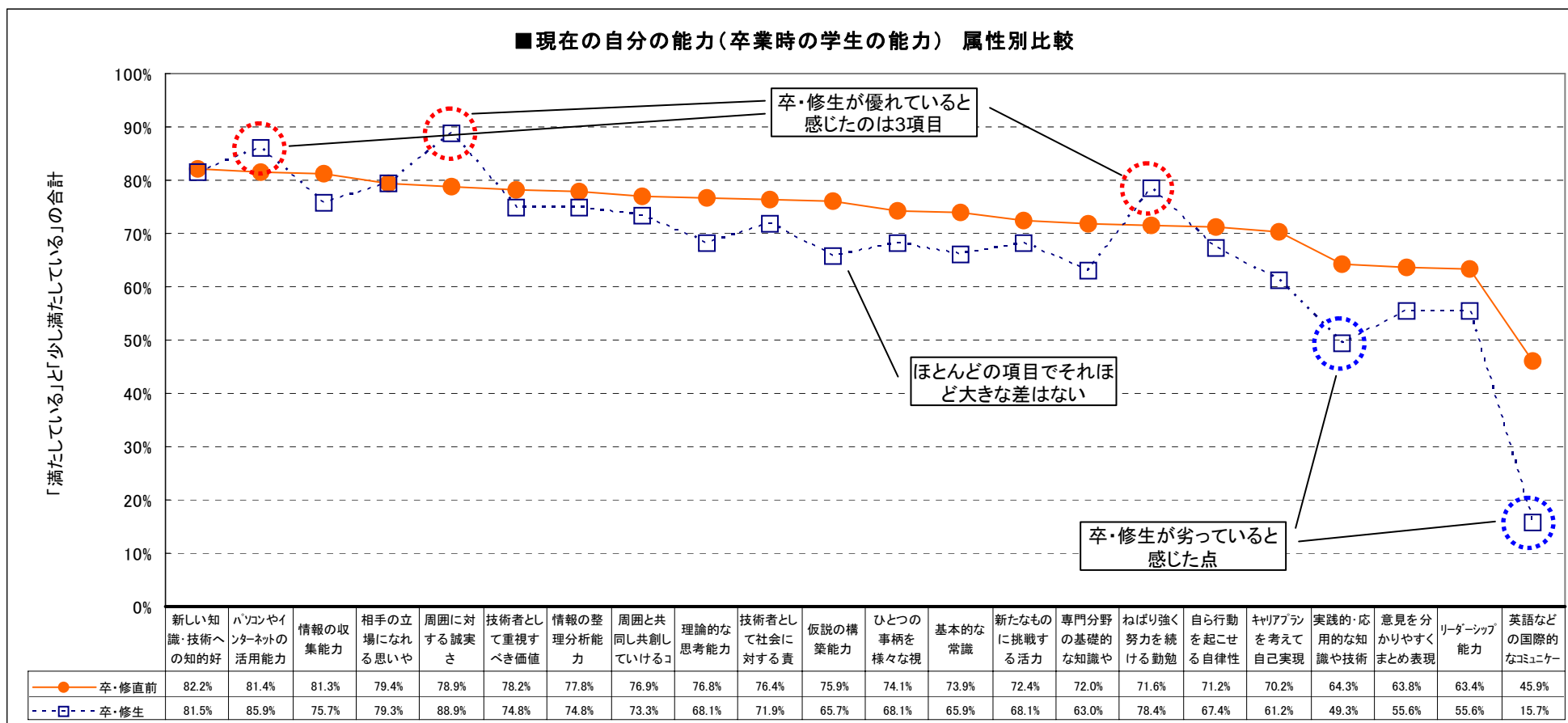
- 教職員には「KIT-IDEALS」の各項目に関する達成度を聞いている。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で全体の傾向を見ると、「A:課題解決のための自律性を持っている」「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」の低さが目立っていた。
- 全ての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多かった。特に「A:課題解決のための自律性を持っている」「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」の意識の差は大きく、「教員」の方がかなり高い。また、「I:知的好奇心を持っている」「E:前向きな活力を持っている」も「教員」の方が高く、意識の差が見られる。
- 「I:知的好奇心」に関して「そう思う」だけを見ると、「教員」では52.7%であったが、「職員」は24.3%であり、意識の差が非常に大きいと言える。



<9-1>卒業時の能力

■卒業時の能力の属性別比較

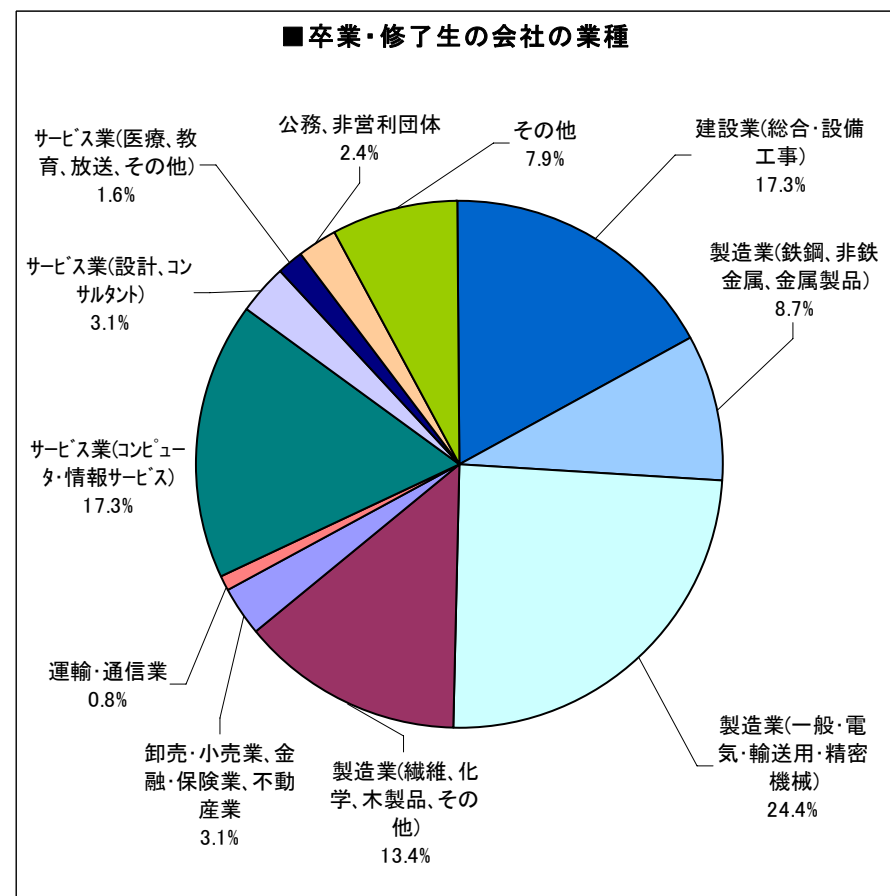
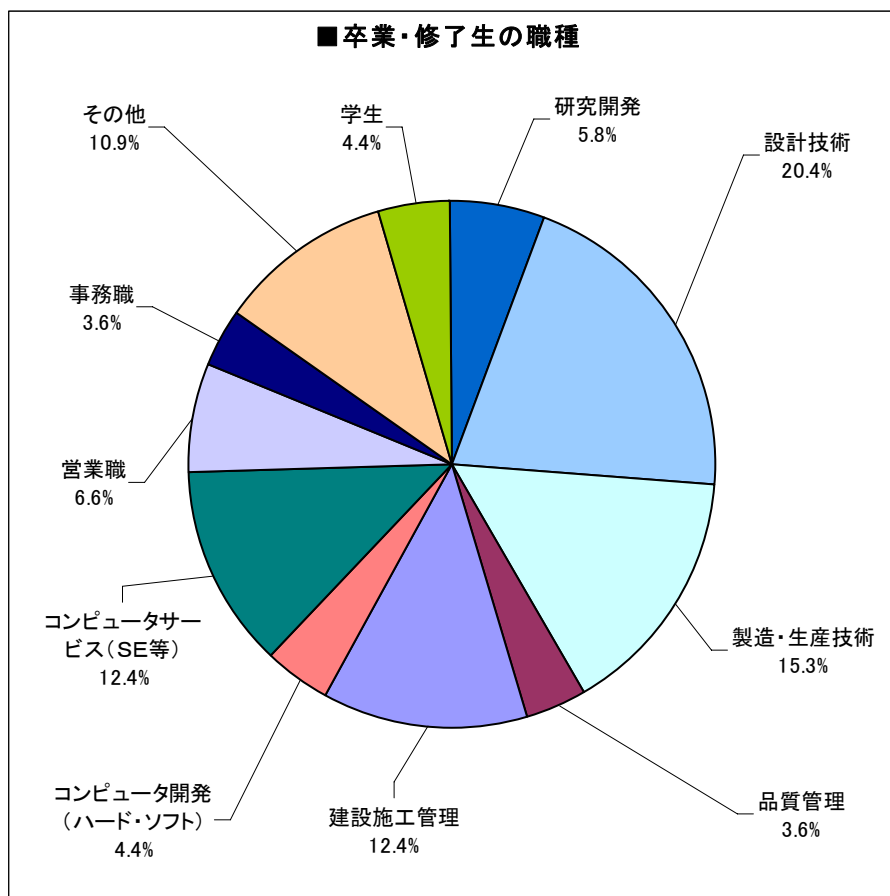
- 卒業時の能力に関しては卒・修直前と卒・修生に聞いており、卒・修直前のスコアでソートしたものが下記のグラフとなる。
- ほとんどの項目で卒・修生の方が少し厳しい評価をしていたが、それほど大きな差は見られなかった。
- 卒・修生の方が評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲に対する誠実さ」「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」の3項目であったが、この差から考えると「卒業後に周囲と比較することで在学中の認識よりも自分の能力が高かったと自覚した点」と言って良いのではないかと思われ、KITの卒・修生の強みと言って良いと思われる。
- 卒・修生の評価が厳しかったのは上記の3項目以外であるが、「実践的・応用的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション」の2項目の評価は特に低く、自分のこの2つの能力は、卒業前に思っていたよりも低かったと実感したものと思われる。



<10-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種と会社の業種

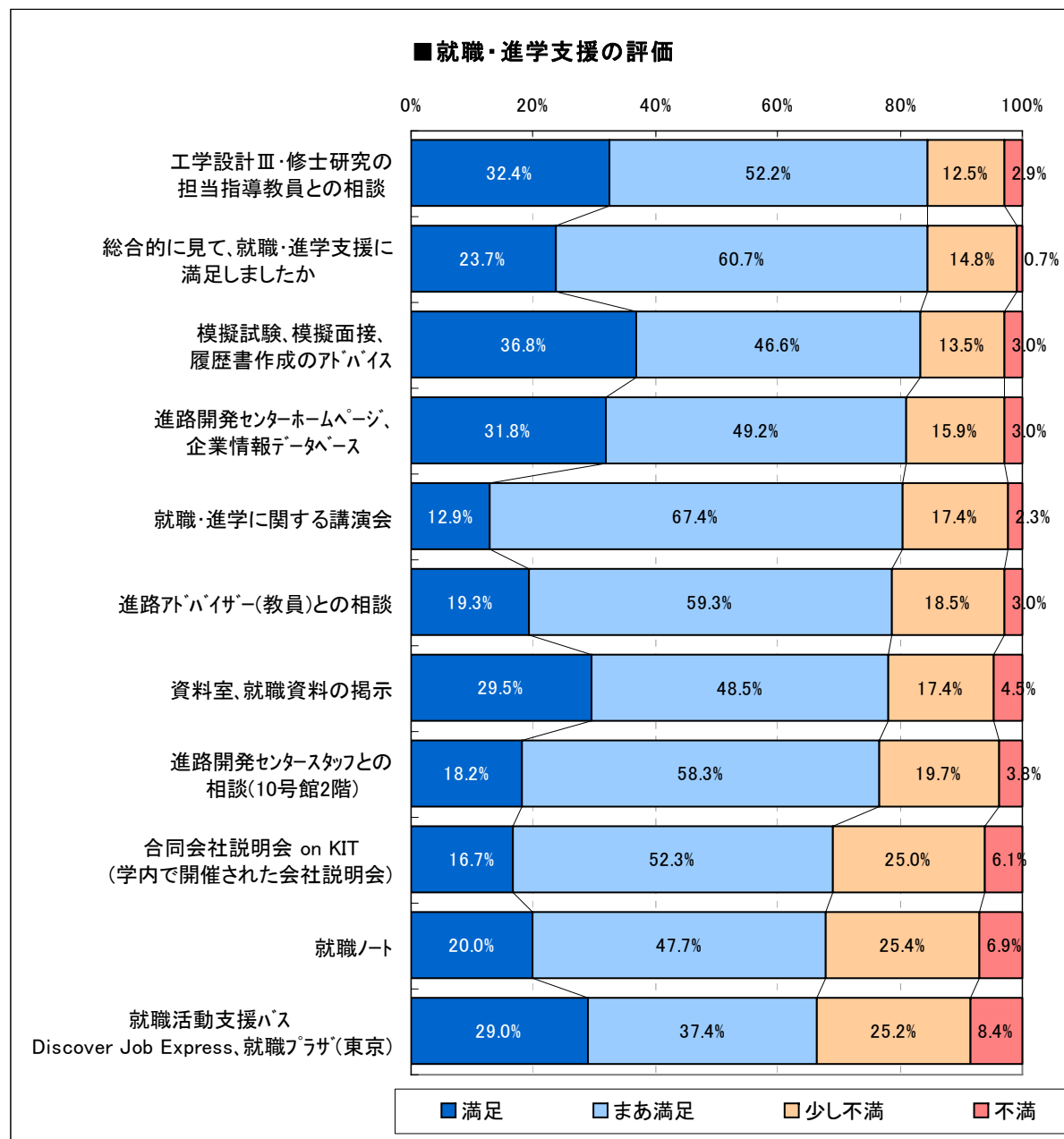
- 卒業・修了生に対するアンケートでは基本的な属性を聞いているが、その内容は下記の通りであった。
- 職種で最も多かったのは「設計技術」の20.4%であり、次いで「製造・生産技術」が15.3%、「建設施工管理」と「コンピュータサービス(SE等)」が12.4%と続いていた。
- 勤務する会社の業種で見ると、最も多かったのは「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」の24.4%であり、次いで、「建設業(総合・設備工事)」と「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が17.3%、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」が13.4%と続いていた。



<10-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

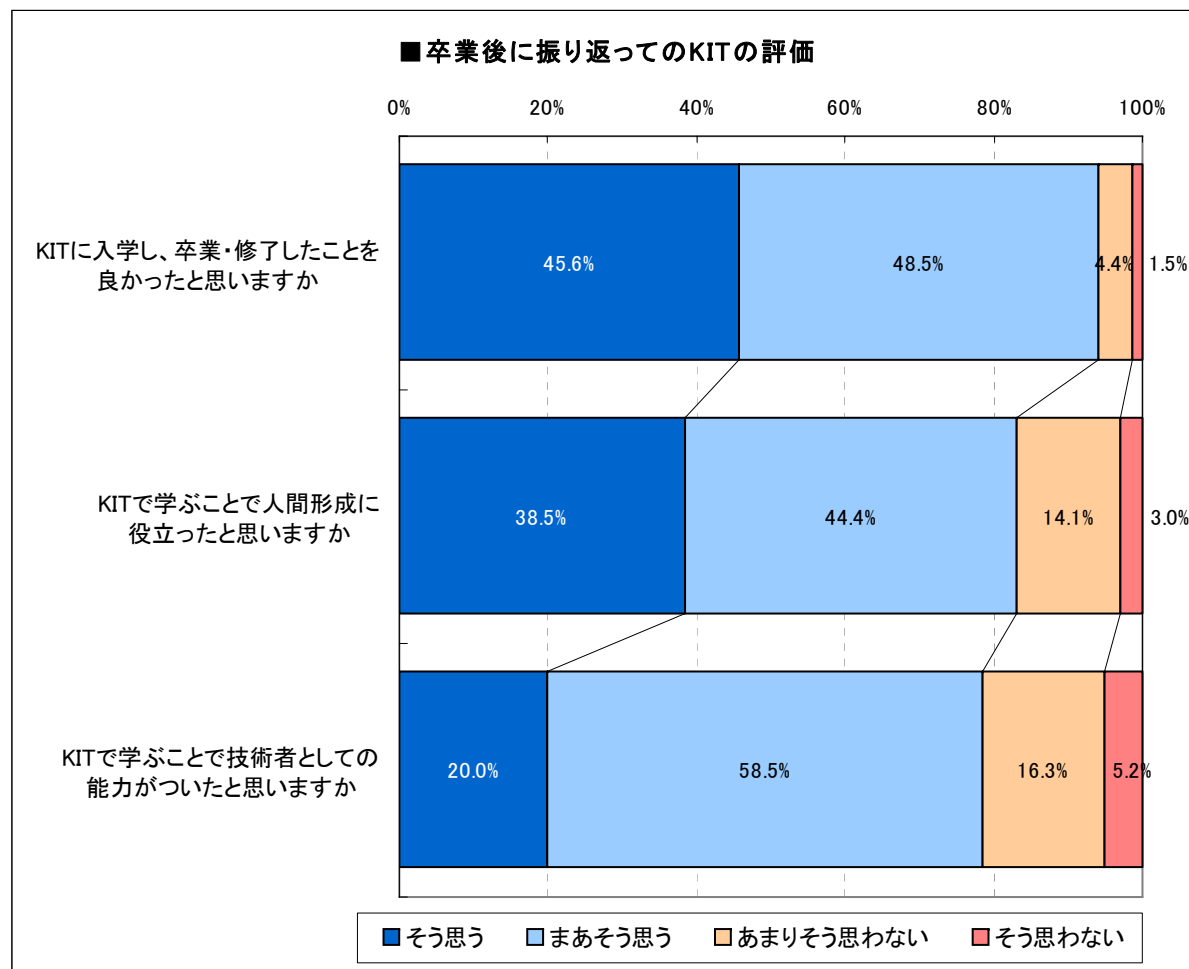
- 卒・修生には就職・進学支援に関する満足度を聞いている。
- 最も満足度が高かったのは「工学設計Ⅲ・修士研究の担当指導教員との相談」であり、「満足」と「まあ満足」を合わせると84.6%であった。
- 次いで、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」では84.4%、「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」では83.4%が満足と答えていた。
- 特に「満足」だけを見ると「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」の36.8%が最も多く、満足度の高い学生が多くいたことが分かる。
- 一方、最も満足度が低かったのは就職活動支援バスDiscover Job Express、就職プラザ(東京)であり、満足しているという回答は66.4%であった。ただし、「満足」だけを見ると29.0%と多く、満足度の高い学生も少なくなかったと言える。
- 「就職ノート」「合同会社説明会 on KIT」の満足度もやや低めであり、ここまでの3つは満足という回答が7割に満たなかった。



<10-3> 卒業後のKITの評価

■ 卒業後のKITの評価

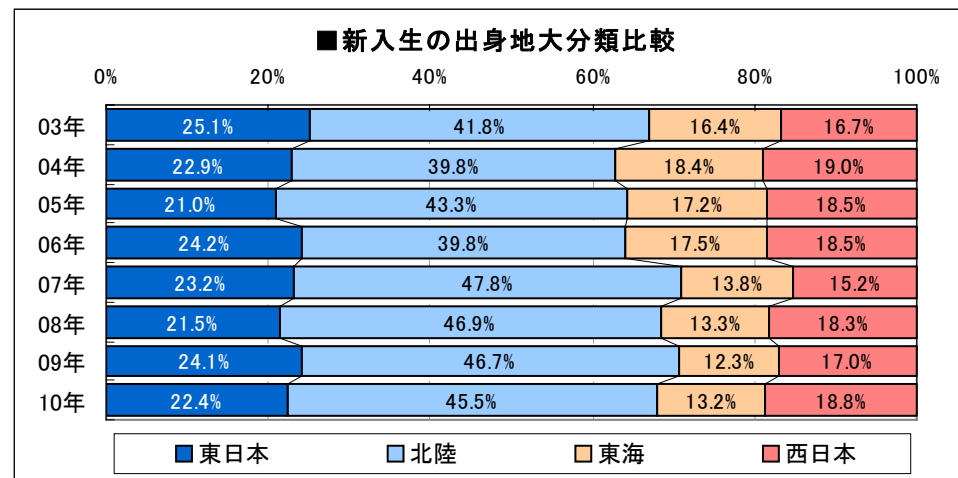
- 卒業後に振り返ってKITをどう評価するか聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」に関しては、半数近い45.6%が「そう思う」と答え、「まあそう思う」(48.5%)と合わせると94.1%がKITを卒業・修了したことに満足しており、満足度は非常に高いと言える。
- 「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」に関しては、「そう思う」が38.5%、「まあそう思う」が44.4%であり、合わせると82.9%が肯定的な意見であった。
- 「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」では、「そう思う」は20.0%と少なかったが、「まあそう思う」は58.5%であり、能力としてはややついたと感じている様子であった。



<11-1>新入生のプロフィール

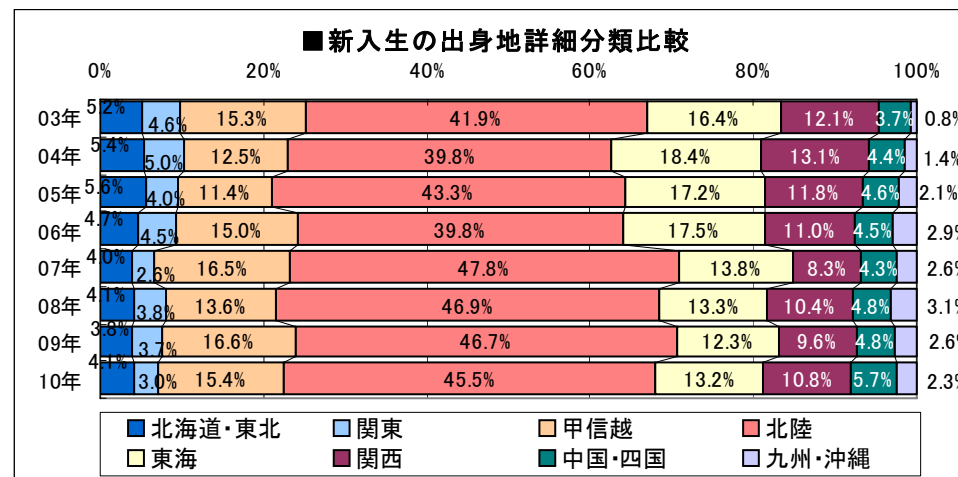
■新入生の学部・学科、出身地

- アンケートに回答した新入生は1723名であり、「工学部」が44.3%、「情報学部」が27.9%、「環境・建築学部」が15.0%、「バイオ・化学部」が12.6%という割合であった。
- 出身地域では、「北陸」が最も多く45.5%、「東日本」が22.4%と続いており、経年変化を見てもそれほど大きな変化は見られなかった。
- 出身地域を詳細に見ると、「東日本」では「甲信越」が15.4%と多く、「西日本」では「関西」が10.8%を占めていた。割合が多い地域から並べると、「北陸」「甲信越」「東海」「関西」という順であった。



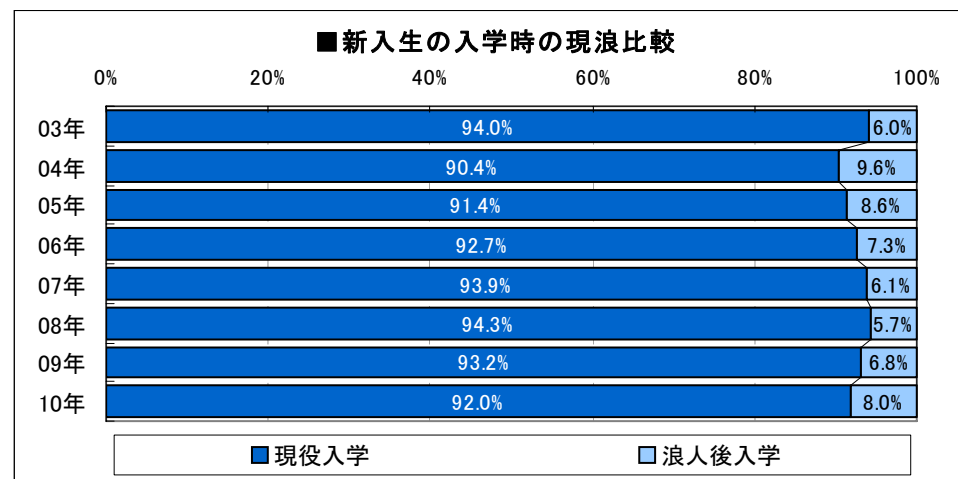
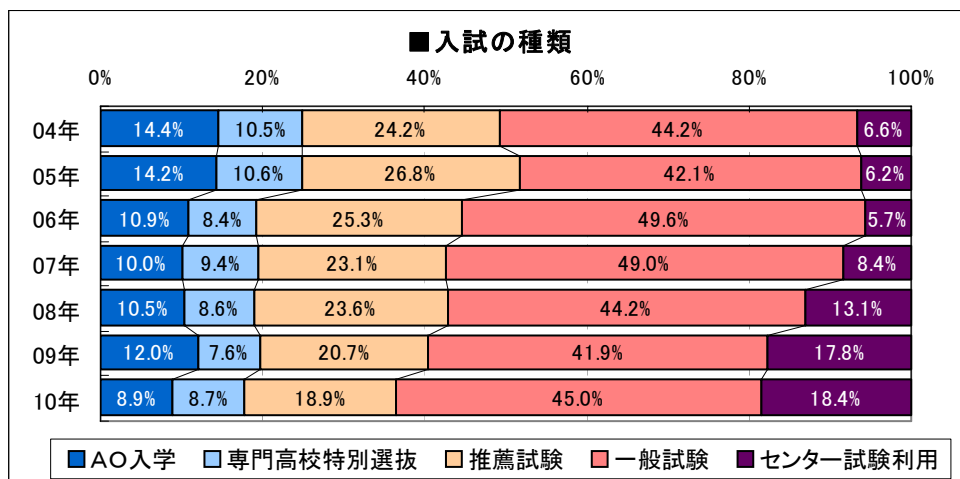
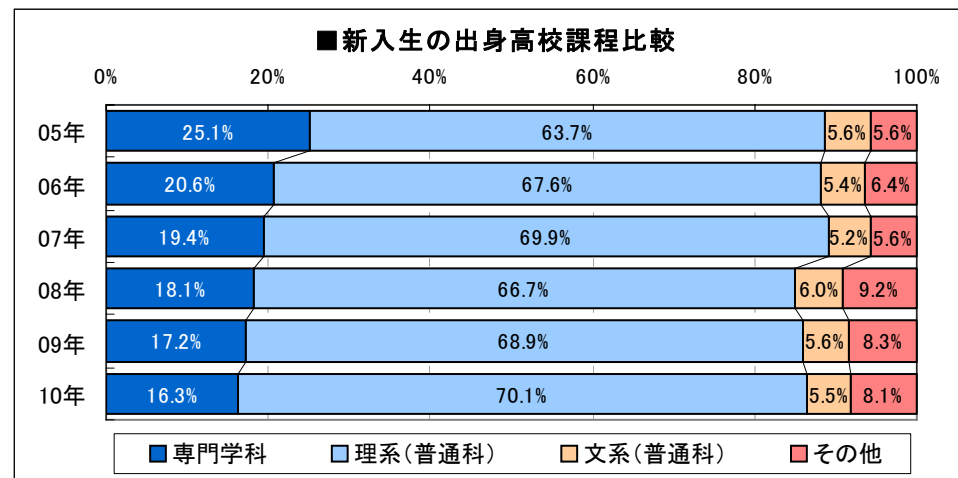
■学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	764	44.3%	255	14.8%
	ロボティクス学科			138	8.0%
	航空システム工学科			64	3.7%
	電気電子工学科			226	13.1%
	情報通信工学科			81	4.7%
情報学部	情報工学科	480	27.9%	244	14.2%
	メディア情報学科			154	8.9%
	心理情報学科			54	3.1%
	情報経営学科			28	1.6%
環境・建築学部	環境土木工学科	259	15.0%	40	2.3%
	建築学科			172	10.0%
	建築都市デザイン学科			47	2.7%
バイオ・化学部	応用バイオ学科	217	12.6%	121	7.0%
	応用化学科			96	5.6%
	無回答	3	0.2%	3	0.2%
	合計	1723	100.0%	1723	100.0%



■ 新入生入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類を見ると「一般試験」が45.0%と最も多く、次いで「推薦試験」が18.9%、「センター試験利用」が18.4%という割合であった。
- 前年からの変化を見ると「一般試験」の増加と「AO入学」の減少が目立っており、「センター試験利用」は2割弱で安定していた。
- 新入生の出身高校課程では「理系(普通科)」が70.1%で最も多く、08年から継続的に増加しており、これまでで最も多くなった。一方、「専門学科」は16.3%と2番目に多いものの、05年の調査開始から継続的に減少していた。
- 入学時の現浪比較では92.0%が「現役入学」で、大きな変化はないものの09年からは1.2ポイント減少していた。



■過去3年間の出身地一覧

■07年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	6	0.4%		
宮城県	7	0.4%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	13	0.8%		
福島県	9	0.5%		
茨城県	6	0.4%		
栃木県	6	0.4%		
群馬県	13	0.8%		
埼玉県	0	0.0%		
千葉県	3	0.2%		
東京都	6	0.4%		
神奈川県	9	0.5%		
新潟県	156	9.5%	380 23.1%	271 16.5%
山梨県	2	0.1%		
長野県	113	6.9%	北陸	北陸
富山県	199	12.1%		
石川県	470	28.6%	785 47.8%	785 47.8%
福井県	116	7.1%		
岐阜県	40	2.4%	東海	東海
静岡県	90	5.5%		
愛知県	64	3.9%	227 13.8%	227 13.8%
三重県	33	2.0%		
滋賀県	32	1.9%	西日本	関西
京都府	23	1.4%		
大阪府	19	1.2%		
兵庫県	50	3.0%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	8	0.5%		
鳥取県	8	0.5%		
島根県	10	0.6%		
岡山県	16	1.0%		
広島県	14	0.9%		
山口県	6	0.4%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	5	0.3%		
愛媛県	4	0.2%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	16	1.0%	70 4.3%	九州・沖縄
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	4	0.2%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	11	0.7%	249 15.2%	42 2.6%
不明	1	0.1%	1 0.1%	1 0.1%
合計	1642	100.0%	1642 100.0%	1642 100.0%

■08年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	0.9%	東日本	北海道・東北
青森県	5	0.3%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	12	0.7%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	14	0.8%		
福島県	9	0.5%		
茨城県	2	0.1%		
栃木県	13	0.8%		
群馬県	25	1.5%		
埼玉県	6	0.4%		
千葉県	6	0.4%		
東京都	8	0.5%		
神奈川県	3	0.2%		
新潟県	152	9.2%	354 21.4%	223 13.5%
山梨県	9	0.5%		
長野県	62	3.8%	北陸	北陸
富山県	213	12.9%		
石川県	447	27.1%	772 46.7%	772 46.7%
福井県	112	6.8%		
岐阜県	55	3.3%	東海	東海
静岡県	61	3.7%		
愛知県	50	3.0%	218 13.2%	218 13.2%
三重県	52	3.1%		
滋賀県	36	2.2%	西日本	関西
京都府	33	2.0%		
大阪府	35	2.1%		
兵庫県	45	2.7%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	15	0.9%		
鳥取県	9	0.5%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	17	1.0%		
広島県	14	0.8%		
山口県	10	0.6%		
徳島県	9	0.5%		
香川県	4	0.2%		
愛媛県	8	0.5%		
高知県	0	0.0%		
福岡県	24	1.5%	79 4.8%	九州・沖縄
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	8	0.5%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	8	0.5%	301 18.2%	51 3.1%
不明	7	0.4%	7 0.4%	7 0.4%
合計	1652	100.0%	1652 100.0%	1652 100.0%

■09年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	13	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	4	0.3%		
岩手県	1	0.1%		
宮城県	3	0.2%		
秋田県	16	1.0%		
山形県	18	1.1%		
福島県	4	0.3%		
茨城県	12	0.8%		
栃木県	7	0.4%		
群馬県	20	1.3%		
埼玉県	2	0.1%		
千葉県	7	0.4%		
東京都	5	0.3%		
神奈川県	4	0.3%		
新潟県	131	8.4%	374 23.9%	258 16.5%
山梨県	14	0.9%		
長野県	113	7.2%	北陸	北陸
富山県	208	13.3%		
石川県	398	25.4%	725 46.2%	725 46.2%
福井県	119	7.6%		
岐阜県	50	3.2%	東海	東海
静岡県	62	4.0%		
愛知県	57	3.6%	191 12.2%	191 12.2%
三重県	22	1.4%		
滋賀県	43	2.7%	西日本	関西
京都府	33	2.1%		
大阪府	18	1.1%		
兵庫県	43	2.7%		
奈良県	4	0.3%		
和歌山県	8	0.5%		
鳥取県	8	0.5%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	20	1.3%		
広島県	13	0.8%		
山口県	8	0.5%		
徳島県	9	0.6%		
香川県	4	0.3%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	2	0.1%		
福岡県	16	1.0%	74 4.7%	九州・沖縄
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	8	0.5%	264 16.8%	41 2.6%
不明	14	0.9%	14 0.9%	14 0.9%
合計	1568	100.0%	1568 100.0%	1568 100.0%

■10年 出身地一覧

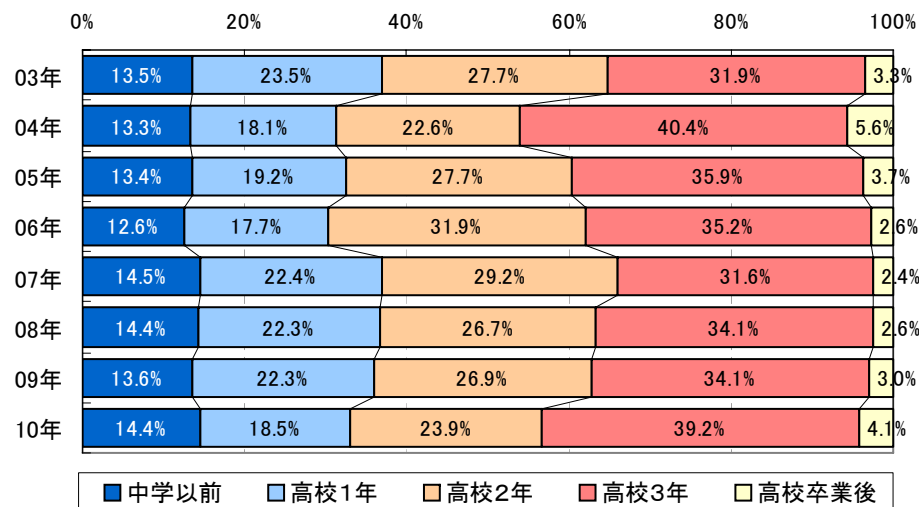
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	13	0.8%		
秋田県	16	0.9%		
山形県	13	0.8%		
福島県	5	0.3%		
茨城県	8	0.5%		
栃木県	8	0.5%		
群馬県	15	0.9%		
埼玉県	5	0.3%		
千葉県	6	0.3%		
東京都	3	0.2%		
神奈川県	6	0.3%		
新潟県	161	9.3%	385 22.3%	264 15.3%
山梨県	1	0.1%		
長野県	102	5.9%	北陸	北陸
富山県	225	13.1%		
石川県	433	25.1%	781 45.3%	781 45.3%
福井県	123	7.1%		
岐阜県	64	3.7%	東海	東海
静岡県	81	4.7%		
愛知県	53	3.1%	227 13.2%	227 13.2%
三重県	29	1.7%		
滋賀県	45	2.6%	西日本	関西
京都府	24	1.4%		
大阪府	31	1.8%		
兵庫県	67	3.9%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	13	0.8%		
鳥取県	10	0.6%		
島根県	7	0.4%		
岡山県	23	1.3%		
広島県	18	1.0%		
山口県	8	0.5%		
徳島県	14	0.8%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	7	0.4%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	20	1.2%	74 4.7%	九州・沖縄
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	5	0.3%	322 18.7%	40 2.3%
不明	8	0.5%	8 0.5%	8 0.5%
合計	1723	100.0%	1723 100.0%	1723 100.0%

<11-3> KITの認知経路などに関して

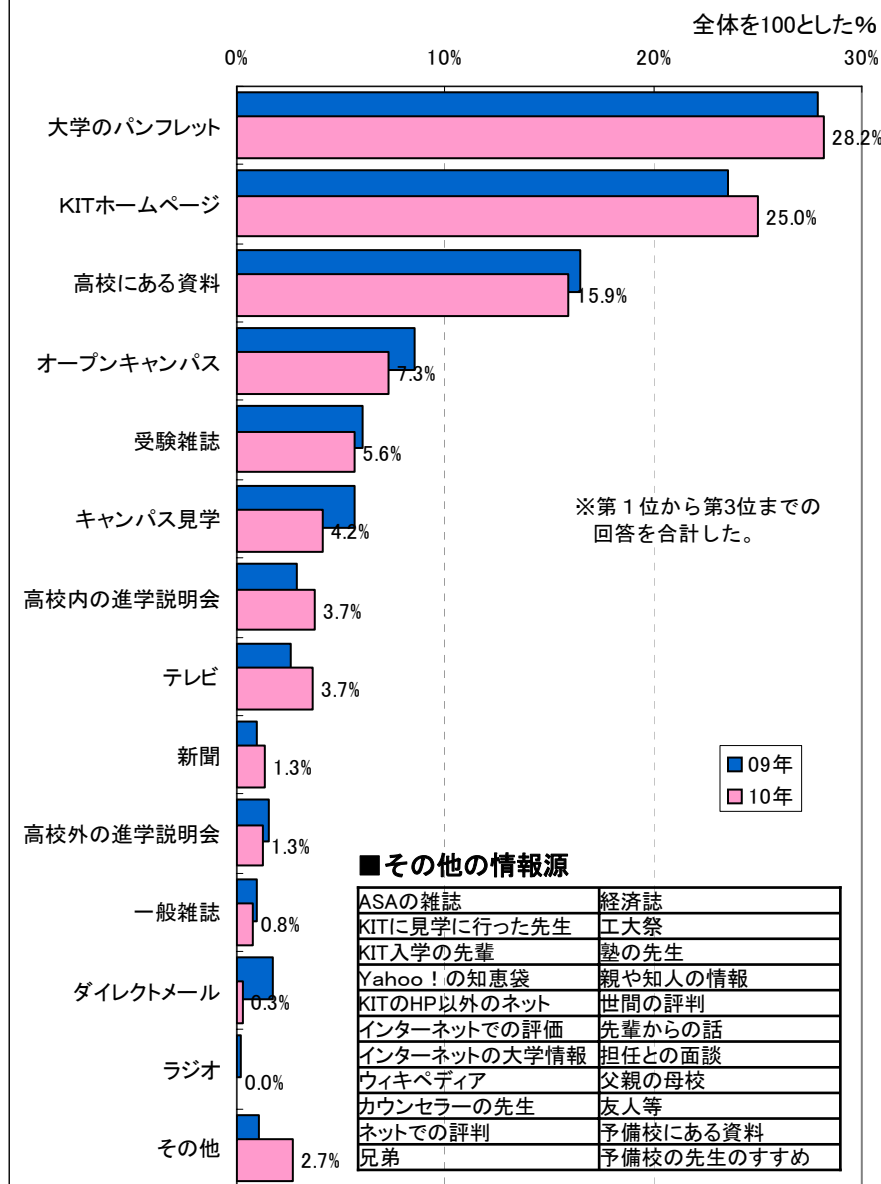
■KITを知った時期と利用した媒体

- KITを知った時期としては「高校3年」が最も多く39.2%であった。次いで、「高校2年」が23.9%、「高校1年」が18.5%となっていた。
- 前回の調査と比べると「高校3年」が5.1ポイント増加し、「高校2年」が3.0ポイント、「高校1年」が3.8ポイント減少しており、全体としてはKITを知った時期はやや遅くなっていた。
- KITを知るために使った媒体で最も多かったのは「大学のパンフレット」であり、全体の28.2%が利用していた。次いで「KITホームページ」、「高校にある資料」、「オープンキャンパス」と続いていた。
- 前回との比較では「KITホームページ」「高校内の進学説明会」「テレビ」の増加が目立っており、「高校にある資料」「オープンキャンパス」「受験雑誌」「キャンパス見学」などが低下していた。
- 次項のKIT入学を相談した人では「親・親戚」が51.9%、「高校の担任の先生」が23.5%であり、以前との変化はほとんどなかった。
- 学科を選択した理由では、「学科で学ぶ内容」が43.9%で前回よりわずかに増加しており、「将来性」「学科の名称・イメージ」「就職内容」などがわずかに減少していた。

■新入生 KITを知った時期比較

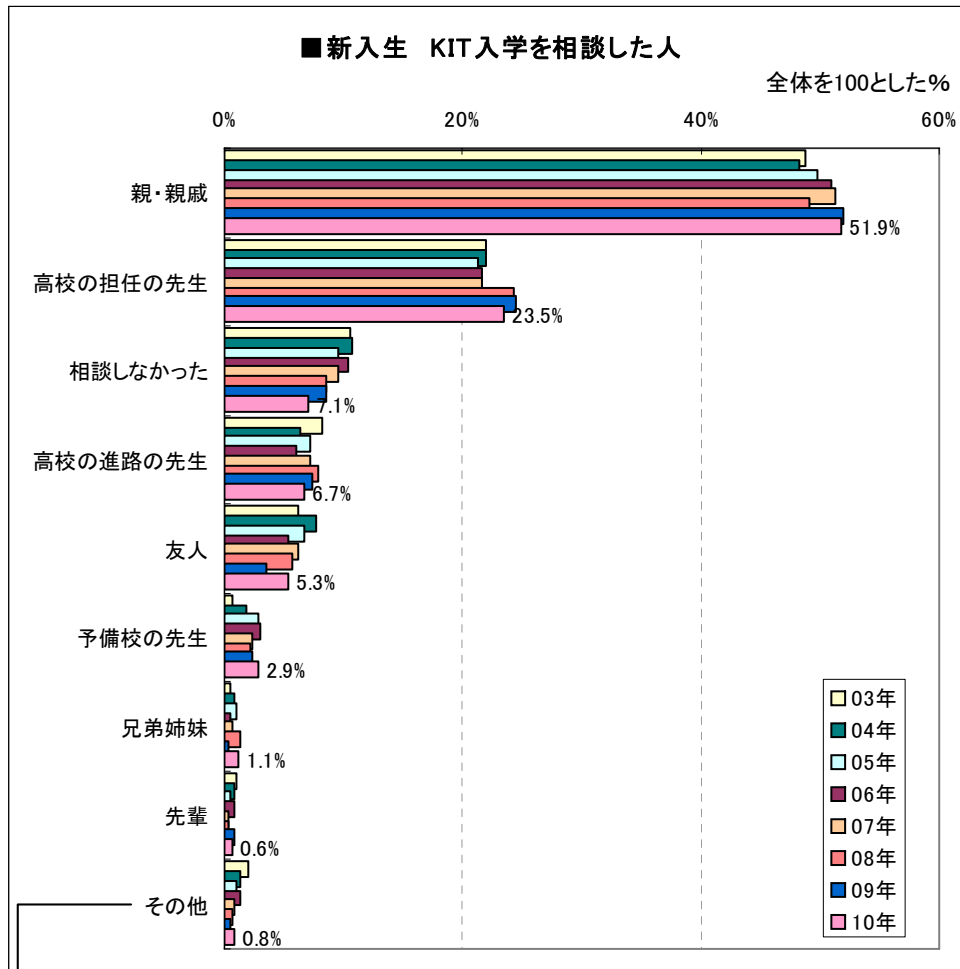


■新入生 KITを知るために使った媒体比較



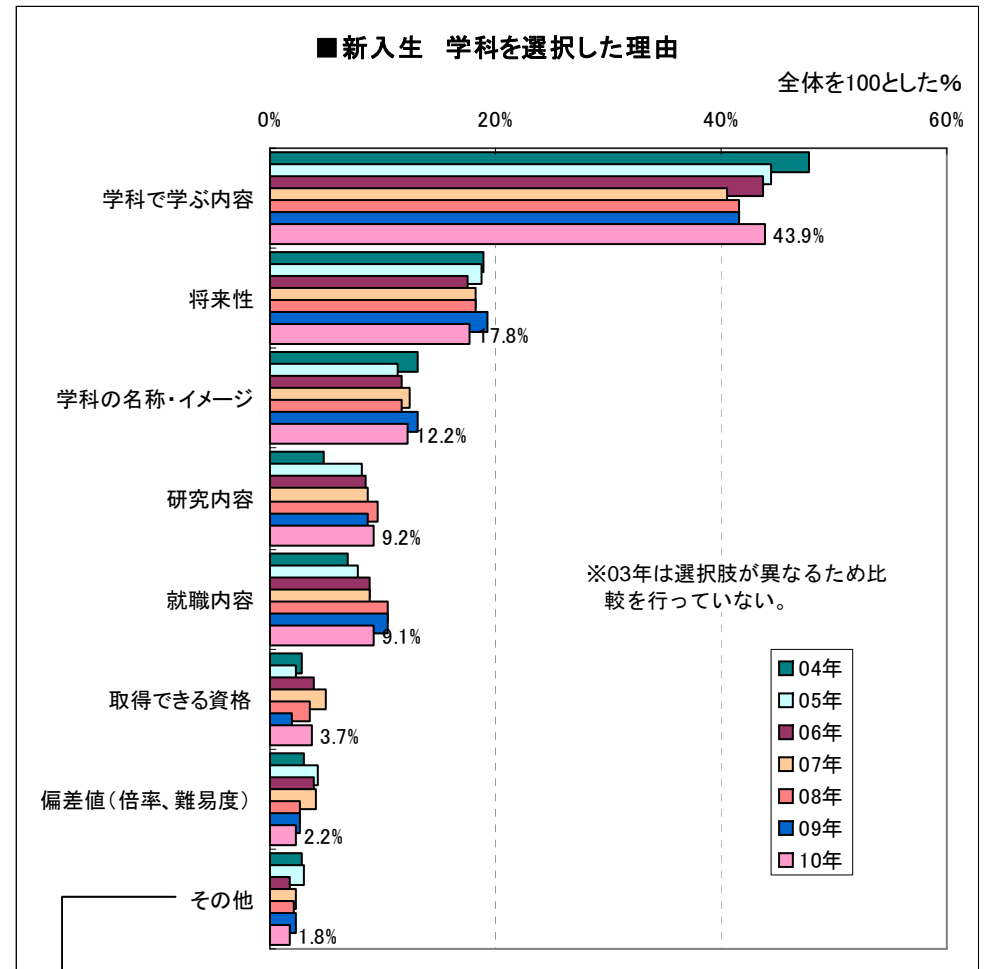
■その他の情報源

ASAの雑誌	経済誌
KITに見学に行った先生	工大祭
KIT入学の先輩	塾の先生
Yahoo!の知恵袋	親や知人の情報
KITのHP以外のネット	世間の評判
インターネットでの評価	先輩からの話
インターネットの大学情報	担任との面談
ウィキペディア	父親の母校
カウンセラーの先生	友人等
ネットでの評判	予備校にある資料
兄弟	予備校の先生のすすめ



■ その他の相談相手

インターネット	高校の物理の先生
ネットで知りあったKITの在学生の方	自分の心
家庭教師	塾の先生
高校の教え子にKIT卒の子がいる先生	塾の先生
高校の部活の顧問の先生	担任でも進路の先生でもない高校の先生

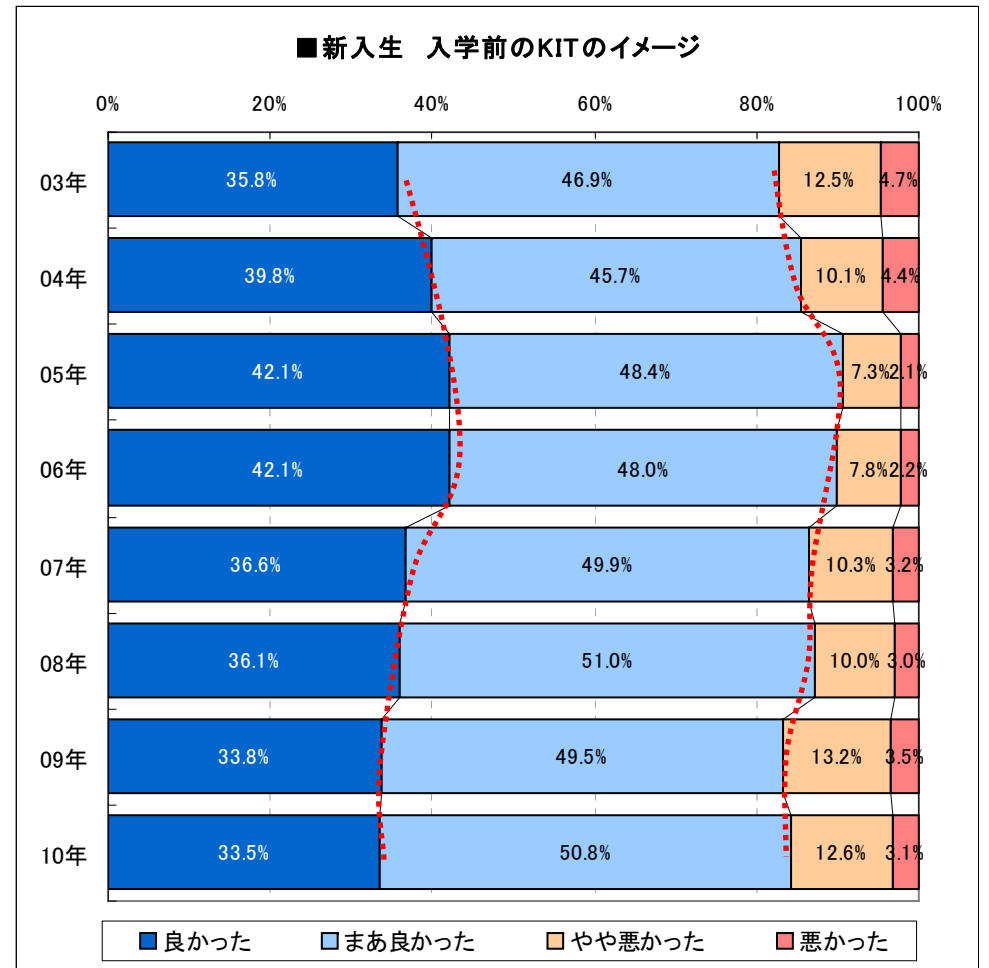


■ その他の学科選択理由

KITの授業方針など24時間体制の自習室	自分にあっていると思ったから
ロボコンに出たい	受験科目が合っていたから
化学が好きだったから。	小さな頃からの目標だったので。
機械に対して興味があり好きだから	知り合いに卒業生がいたから
興味があるから	熱心に指導してくれると聞いていたから
好きだから	文系なので高校で
高校で同じ学科だから	夢を叶えるため

■入学前のKITのイメージ

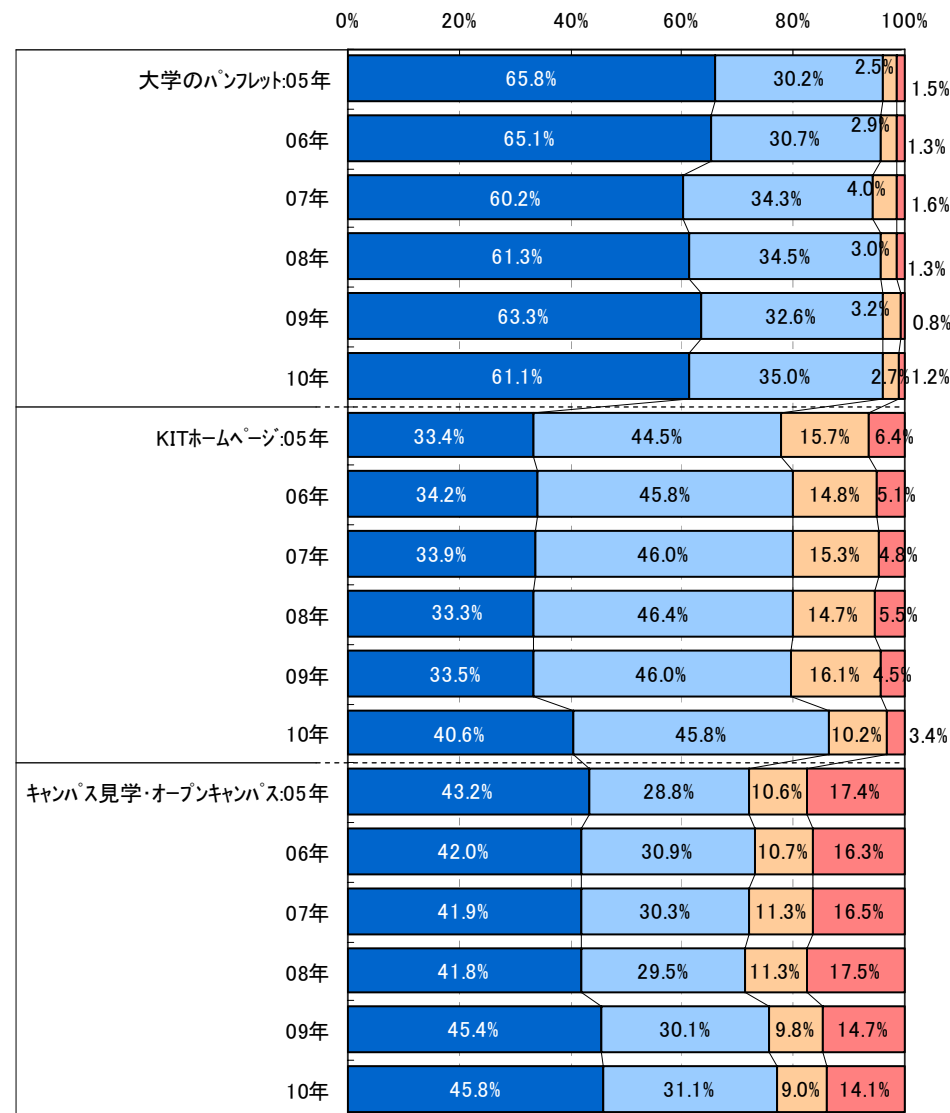
- 入学前のKITのイメージに対して、「良かった」は33.5%、「まあ良かった」は50.8%であり、合わせると84.3%が入学前に良いイメージを持っていたということになる。
- 前回との比較ではほとんど変化はなかったが、05年～06年には9割以上が良いイメージを持っており、そのころと比較するとやや低い状態で落ち着いているといえる。
- 現在は15%ほどが悪いイメージを持ったまま入学しており、この悪いイメージが何なのかをしっかりと把握して対処する必要もあると思われる。



■ 代表的な媒体の評価

- 大学を知るための代表的な3つの媒体の評価を聞いた。
- 「大学のパンフレット」の評価は非常に高く、「役立った」が61.1%、「まあ役立った」が35.0%であり、合わせると96.1%が役に立ったと答えていた。
- KITホームページでは、「役立った」が40.6%、「まあ役立った」が45.8%であり、合わせると86.4%が役に立ったという評価であった。同様に「キャンパス見学・オープンキャンパス」では、76.9%が役に立ったと答えていた。
- 3つの媒体の中では「大学のパンフレット」の評価が最も高く、「KITホームページ」「キャンパス見学・オープンキャンパス」という順になっていた。
- 以前との比較では、「大学のパンフレット」はほとんど変化がなく、「KITホームページ」は09年までと比べると評価が一気に上がっていた。「キャンパス見学・オープンキャンパス」は08年、09年、10年と、徐々に評価が上がってきている状況であった。

■ 新入生 代表的な媒体の評価

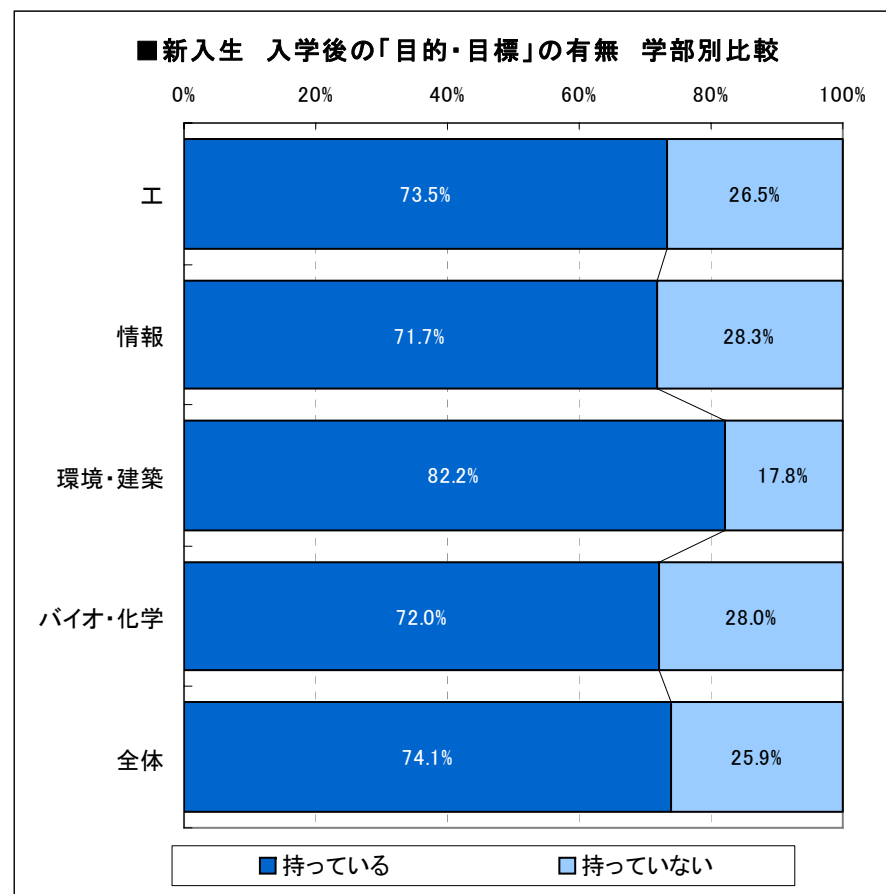
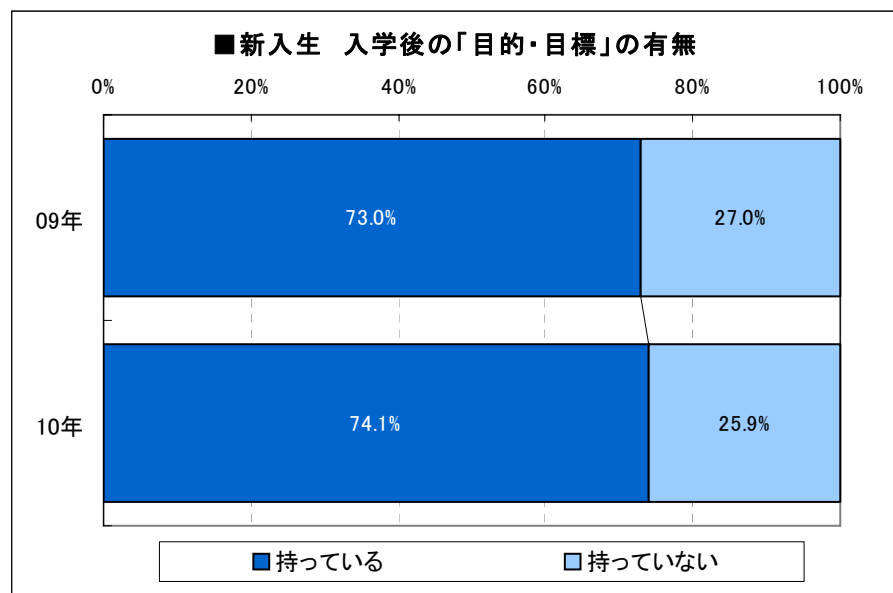


■ 役に立った ■ まあ役立った ■ あまり役立たなかった ■ 役に立たなかった

<11-4>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

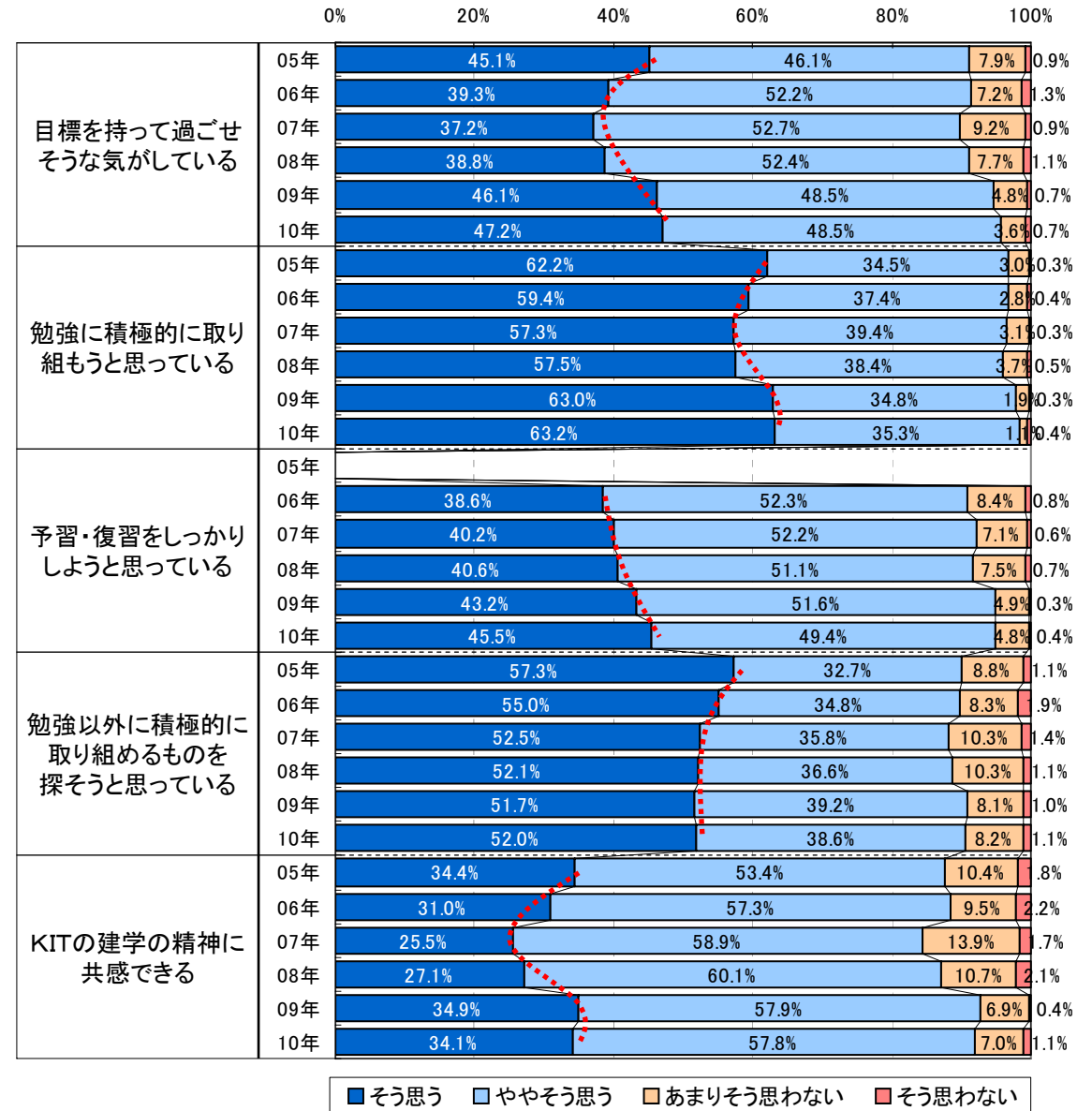
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、74.1%が「持っている」と答えており、09年と比べると1.1ポイントとわずかではあるが、「目的・目標」を持っている学生が増えていることが分かった。
- 学部別に比較すると「環境・建築」で「目的・目標」を持っている割合が多く、82.2%が目標ありと答えており、他の学部比べて突出していた。そして、「工」「情報」「バイオ・化学」にはあまり差がなく、約7割の学生が目標ありと答えていた。



■KITへの期待、心構え

- 「KITへの期待、心構え」として5つの質問をした。
- 5つ共に「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると9割以上が肯定的な意見であり、大きな期待を持ち、高い志を持っているようであった。
- 「「そう思う」だけで比較すると、「勉強に積極的に取り組もうと思っている」では63.2%が「そう思う」と答えており、最も少なかったのは「KITの建学の精神に共感できる」であり、「そう思う」は34.1%にとどまっていた。
- 以前との比較も「そう思う」の割合で見ると、「予習・復習をしっかりとしようと思っている」では「そう思う」が年々増加しており、「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」では07年頃から横這い傾向であった。
- 「目標を持って過ごせそうな気がしている」「勉強に積極的に取り組もうと思っている」「KITの建学の精神に共感できる」の3つは07年～08年頃に「そう思う」が最も少なくなっていたが、09年に増加して今回は横這いとなっていた。

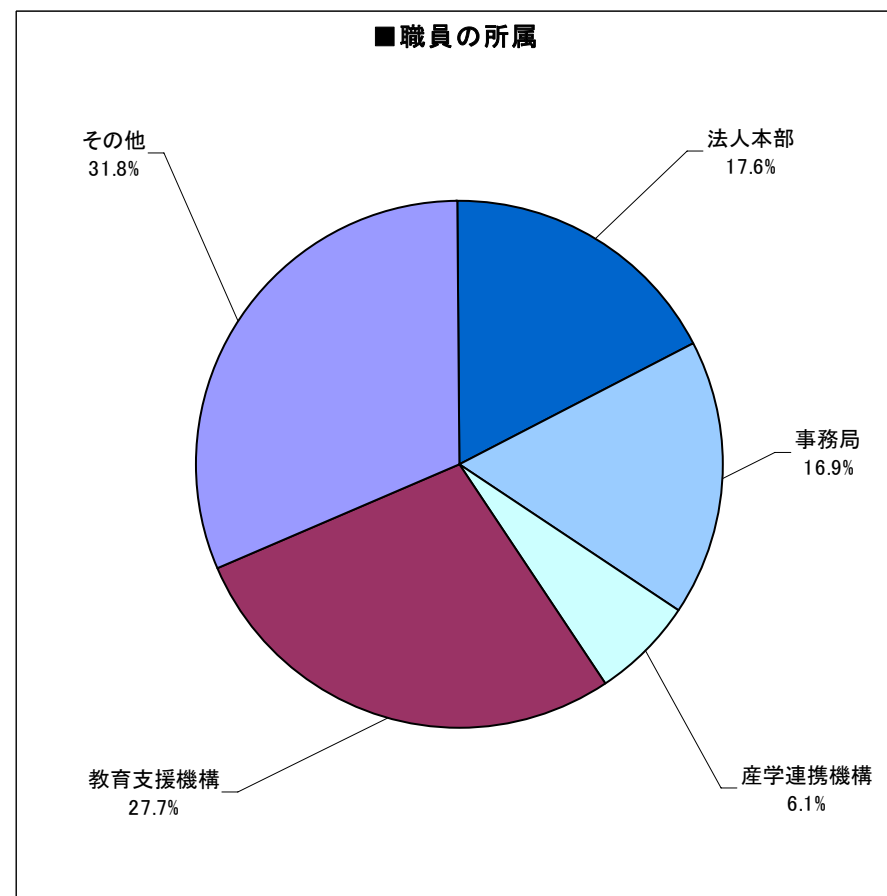
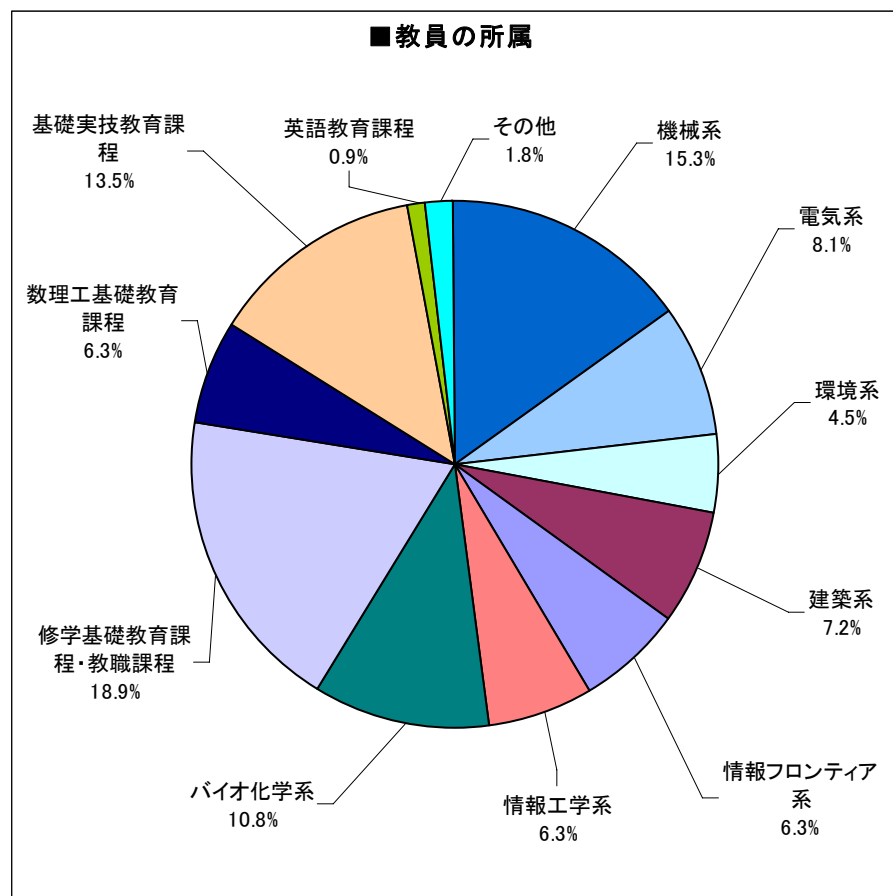
■新入生 KITへの期待、心構え



<12-1>教職員の基本属性

■教職員の基本属性

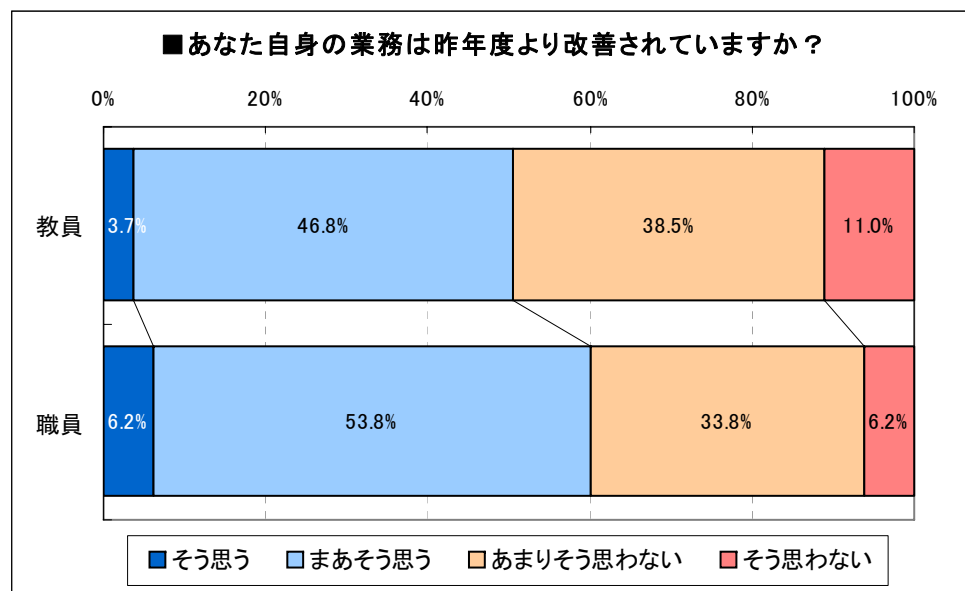
- 回答した教員の所属は下記の通りであり、「修学基礎教育課程・教職課程」が最も多い18.9%、「機械系」が15.3%、「基礎実技教育課程」が13.5%と続いていた。
- 職員の所属では「その他」が31.8%で最も多く、「教育支援機構」が27.7%、「法人本部」が17.6%、「事務局」が16.9%という割合であった。



<12-2> 業務の状況に関して

■ 自分自身の業務改善状況

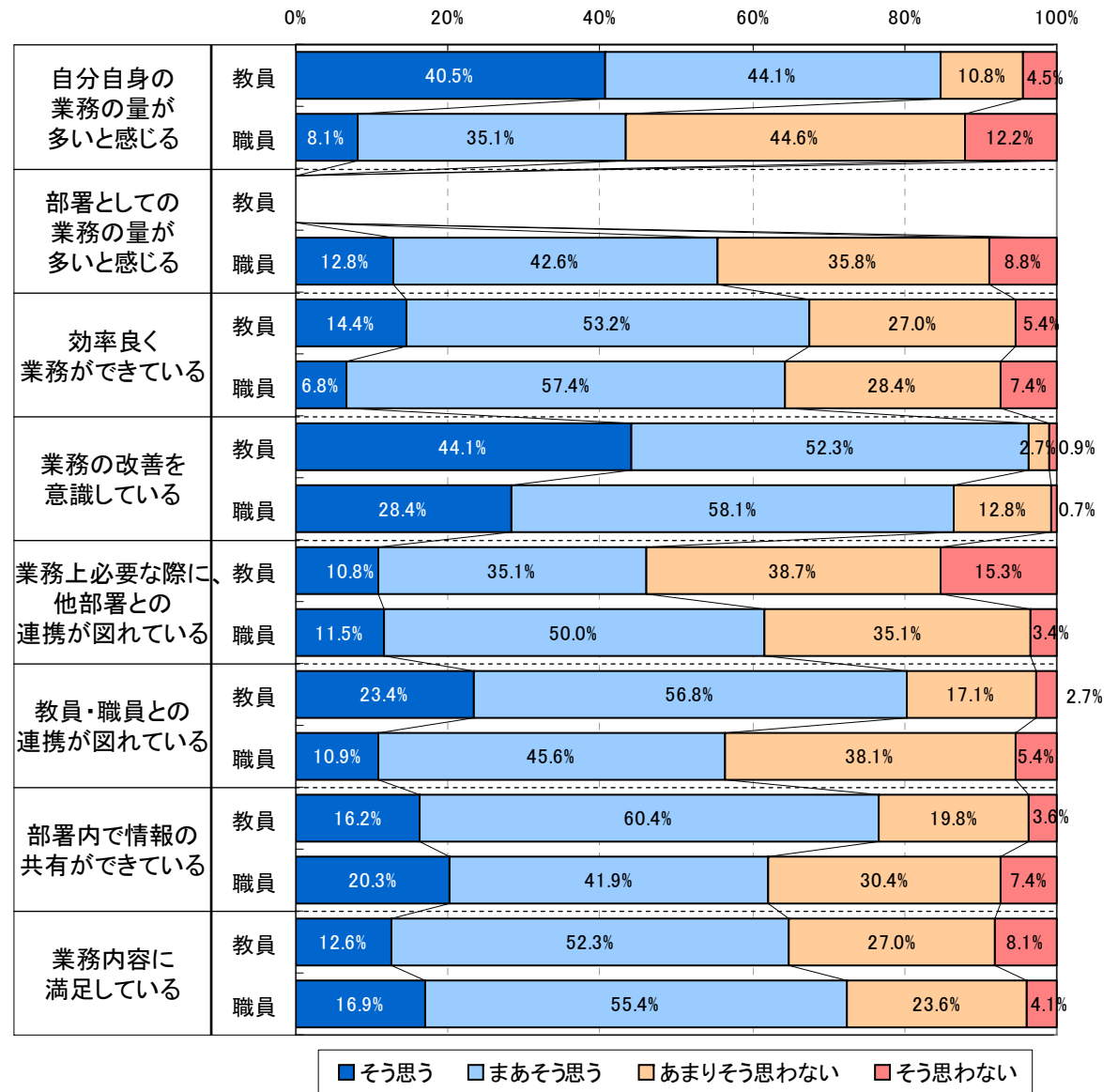
- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」という問いに対して、教員では「そう思う」が3.7%、「まあそう思う」が46.8%であり、合わせると50.5%の教員が昨年より改善されていると感じていた。
- 職員では「そう思う」が6.2%、「まあそう思う」が53.8%であり、合わせると60.0%の職員が改善されていると感じており、教員より改善が進んでいると感じている割合が多かった。
- 「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計を見ると、「教員」では49.5%、「職員」では40.0%であり、4～5割は改善が進んでいないと思っている。これは、しっかり改善を進める必要があると言える結果であった。



■ 自分自身の業務状況

- 自分自身の業務の評価を8つの指標で聞いた。
- 「業務内容に満足している」における肯定的な意見は教員で64.9%、職員で72.3%であり、職員の満足度の方がやや高かった。ただし、両者共に3~4割程度は業務に不満を感じており、この割合を上げていくことも大きな課題となる。
- 教員で肯定的な意見が多かったものを見ると、「業務の改善を意識している」「自分自身の業務の量が多いと感じる」「教員・職員との連携が図れている」「部署内で情報の共有ができています」などを挙げる事ができる。
- 職員では、「業務の改善を意識している」で肯定的な意見が多かった。
- 教員と職員との間で差が大きかったものを見ると、教員は業務の量が多いと感じており、職員との連携は図れているが、他部署との連携が図れていないと感じている。
- 職員は業務量は多くなく、他部署との連携は図れているが、教員との連携はやや図れておらず、部署内の情報共有にもやや課題があると感じている。業務に対する満足度は教員より高いと言える。

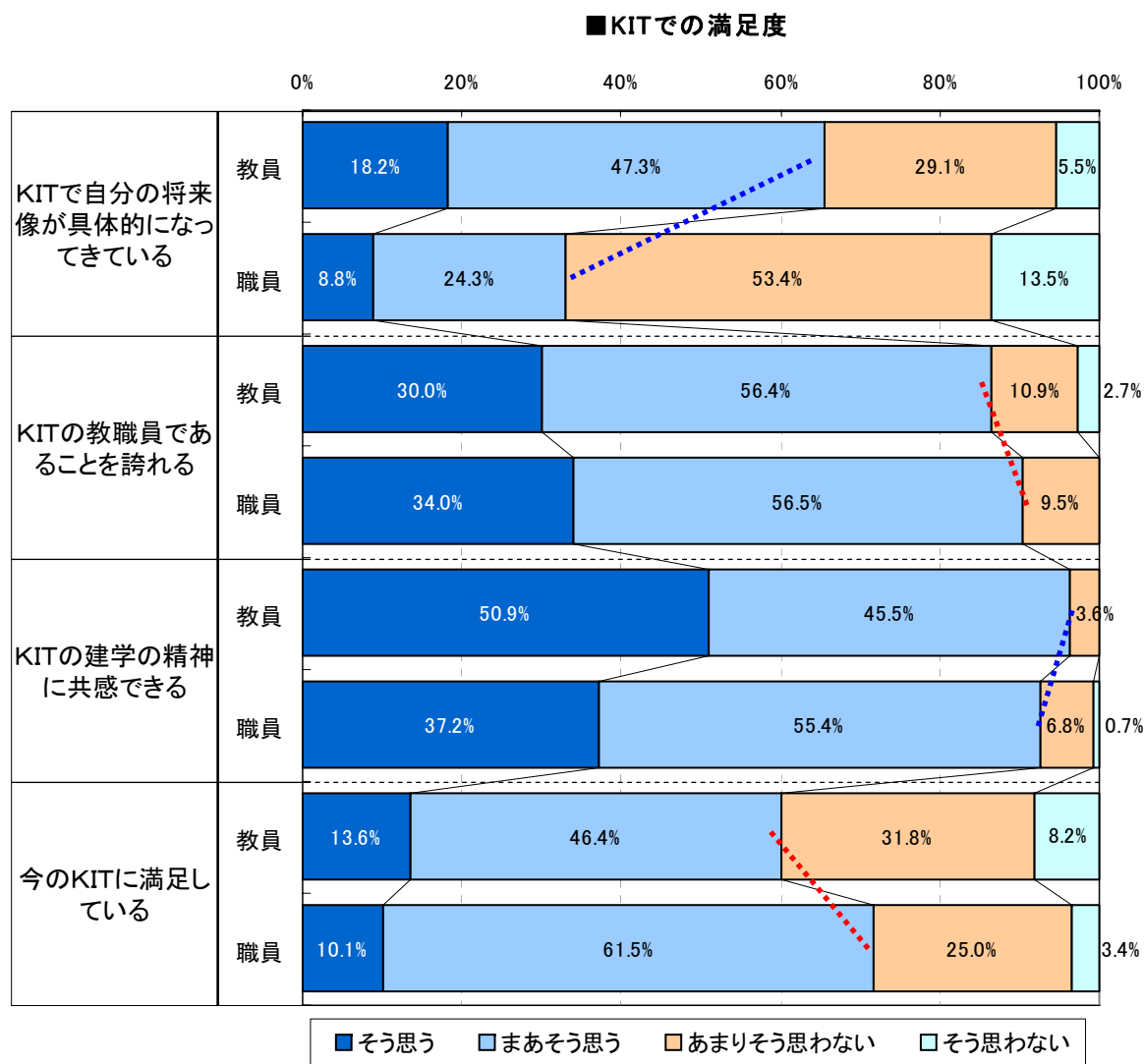
■ 自分自身の業務状況



<12-3>KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度に関しては4つの項目を聞いている。
- 「今のKITに満足している」では、職員の方が肯定的な意見が多く71.6%であり、教員の60.0%を10ポイント以上上回っていた。
- 「KITの教職員であることを誇れる」も職員の方が肯定的な意見が多く90.5%が誇りに感じており、教員では86.4%とわずかに少なかった。
- 「KITの建学の精神に共感できる」では教員の方が肯定的な意見が多く、96.4%が共感できると答えており、職員では92.6%であった。「そう思う」だけを見ると差は更に大きく、教員の共感度が高いことが分かった。
- 「KITで自分の将来像が具体的にになってきている」では教職員の差が非常に大きく、教員では65.5%が肯定的な意見であったが、職員では33.1%であり、30ポイント以上の差がついていた。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2010 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

- | | |
|-----------|--------------|
| ■発行日 | 平成22年9月21日 |
| ■発行者 | 学校法人 金沢工業大学 |
| ■調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| ■編集 | 金沢工業大学企画部CS室 |
-

無断複製厳禁